周原銅器窖藏考

―― 中国古代の銅器窖藏２ ――

近　藤　喬　一

厲王奔彘か周室東遷か
表を読む（１）　城固、藍田
表を読む（２）　臨潼、麟游、銅川
表を読む（３）　延長、清澗、子長、綏徳
表を読む（４）　周原と豐・鎬
三川皆震う

厲王奔彘か周室東遷か

45年前、郭沫若は長安県張家坡の窖藏銅器（第１図Ａ）の銘文をまとめて解釈した[1]時、これらの器が一時の作ではないこと、一家の作ではないこと、器群の主人は周朝の卿士で周初には東征に従軍した、その后人は周中葉以後戎政に従事したことのあることなどを指摘、墓ではないこの窖藏は何の必要があってのものかと問い歴史上の重大事変にかかわって生じたものだとした。ひきつづいて扶風県斉家村の窖藏銅器の銘文を扱った[2]時、張家坡のことも念頭において宝器の窖藏は西周後期には相当普遍的な現象であったとし国家の大変の故だと。

この様な大事件は西周後期にはただ二度しかなく、一度は厲王奔彘、一度は周室の東遷だと。

厲王の三十七年国人が暴政に起ちあがり厲王は山西省霍県の東北に逃げ去るという事件が生じた。国人は厲王の太子静（後の宣王）を殺すことを求めたが、召公が自分の息子を身替りにして太子を助けた。翌年から共伯和が執政を代行し、十四年の久しきに至った。変革に同意しない貴族たちは宝器を埋め隠し厲王について出奔した。しかしこの変革が結局失敗し宣王が復辟した時、ともに逃れた貴族たちも帰ってきただろう。窖藏されていた銅器は再び日の目を見た筈で現代までも埋もれている筈がなくこの事変は除外してもよかろうとした。

ということになると、大群の器群の窖藏が今に至って天日に見える原因はただ一つ周室の東遷しかない。段紹嘉の「簡介」[3]には扶風斉家村の諸器を発見した時、銅器群は一の袋形地窖内につみ重ねられており、解放前扶風任家村から出土した善夫などの諸器の埋藏状況と相似している。同じく周室東遷時、王朝の近臣は祖廟中の彝器を一時にもって逃げられなくて、あわてて窖中に

埋藏したものだろうという見方を引いてその説の正しいことを郭沫若も強く肯定した。周幽王十一年（B.C.771）犬戎が入侵し洪水の暴発と同じように西周の京畿は壊滅した。周室は東遷し東へ逃れた貴族たちは再び窖を開いて銅器をとり出すことは出来なかったというのが窖藏の由来に関する郭沫若の解釈の大意である。

周原及び豐・鎬のかつての周王朝の古都近傍の銅器の埋藏について言及した中国の研究者達は、張長寿、朱鳳瀚、李学勤、陳全方、呉鎮烽、羅西章、曹瑋、張懋鎔、彭裕商らいずれも基本的に郭沫若の見解に賛成している。なかには埋藏された銅器の下限が厲王の時期までにおさまり、郭沫若が否定した厲王奔彘時の埋納で再び所有者が帰ってこなかったために埋もれたままになってしまった例もあるとして克や梁其の諸器の出土した扶風任家村の窖藏について解釈する朱鳳瀚の見方[4]や、微史家族の銅器窖藏を厲王以后の器を含まないとして厲王奔彘と結びつけて考える黄盛璋の見解[5]がある。西周より早い商の段階と西周より後の春秋、戦国には建築祭祀坑が存在し西周時代も例外ではあるまい。扶風斉家村より出土した周厲王㝬簋などは周囲に少なからず紅焼土や西周陶片があり、また踏み固められた地面もあって、この銅簋が宮殿あるいは宗廟のものだった可能性もある。他に外叔鼎や旟鼎のような西周早期の重器の単独出土はこの点を考慮すべきかという見解[6]もある。さらに張懋鎔は1981年に扶風斉鎮で発見された白嚮父瑚（簠）は、器物の上になお鋳型を残しており、銘文もまたはっきりしない。再鋳造用に窖藏したものであろうと銅原料の儲藏坑の場合も指摘[7]している。なお斉鎮には鋳銅作坊区のあることが知られている（種建榮・雷興山「先周文化鋳銅遺存的確認及其意義」『中国文物報』2007年11月30日）。

また羅西章は同じ家族のものであることが明らかな銅器が近くから分けて埋納されている事例から、埋藏の原因をすべて滅国時の隠匿に由来するというのではなくて、財宝の分置という考え方[8]を提示している。

殷周時代の青銅器の埋納された遺跡の数、発見された青銅器の数いずれでも、中国全体の中で群を抜いて多いのは陝西省である。特に関中平野の西部、岐山の南麓で渭河の北岸に位置する周原とよばれる一帯には格段に多い。周原に埋納された銅器の歴史的背景は郭沫若の見解ですべて良しとされがちだが、果してそれで良いものかどうか実態を知りたいと思い今回の銅器窖藏の問題には前回[9]とは地域と時代を異にする陝西省をとりあげることにした。

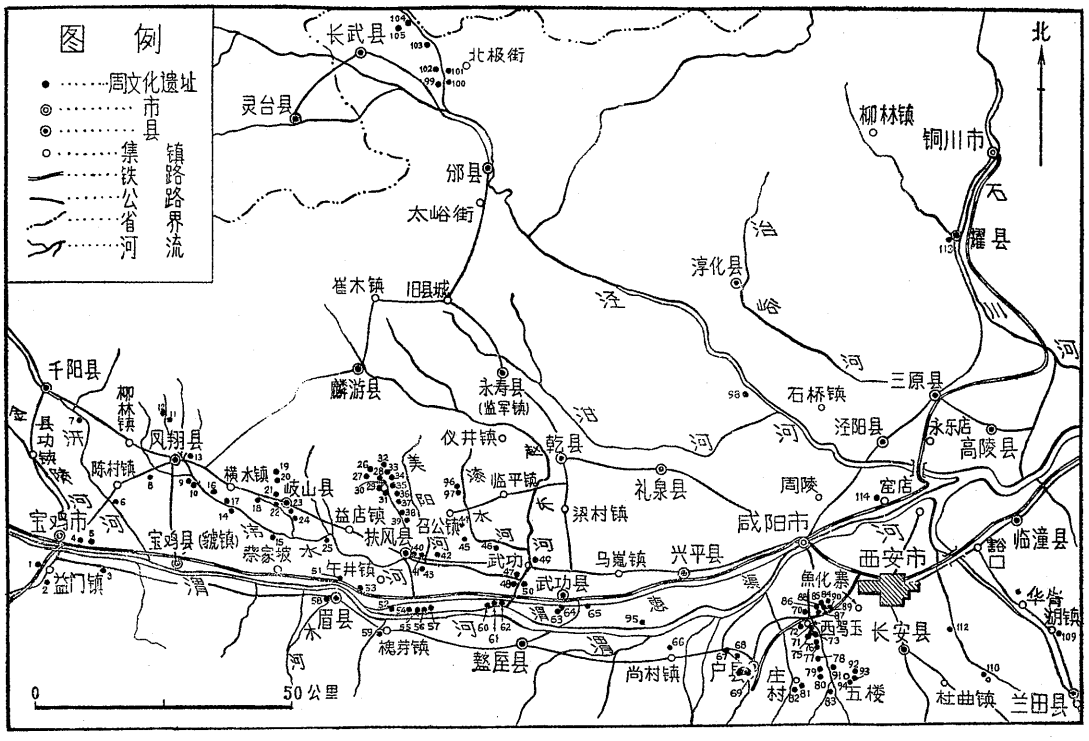
これまで窖藏出土青銅器地名表の作成が何回か行われている[10]が、部分的に扱ったものが多く、また埋納されていた青銅器の年代については個別の見解はあっても、窖藏坑出土の青銅器各個を検討して全体を見ようとするものはないようである。埋納坑のいつ埋められたかの年代に関しても、早い段階での郭沫若の見解がたいていの場合良しとされて、各坑の埋納の年代を個別に検討し、全体として考えるという姿勢に乏しいようにも思える。

銅器の製作年代が西周十二王のうちの誰に比定すべきかは、ものによっては種々の異なる見解の存在していることも承知はしているが、また考古学の型式学的判定だけでは、それが誰れの王

の時の製作といえるのか、また坑に埋められたのはいつと考えるのかといった歴史的考察には役にたたないのではないかという意見もあるかも知れないが、全体の傾向を理解するために林巳奈夫の作成した『殷周青銅器綜覧』1[11]の体系に従い埋納坑より出土した青銅器の型式比定を試みた。今回、本論の主要部分を構成するのは表である。最初に表の記載に関して、説明しておいた方が良いのではないかと思えることを話しておきたい。

周原の中心部を構成するのは岐山県京当郷と扶風県黄堆郷・法門郷である。東西約6㎞、南北約5㎞を測る。両県の窖藏出土青銅器に関する情報は徐天進が主編で作った『吉金鋳国史』[12]が最も新しく、また最も多く数を集めている。彼等の作業は報告書には窖藏資料かどうか明記されていない資料をいくつも含んでおり、丁寧な聞きとりが実際を知る人から行われたものかと推測する。ただ時に出典の文献に見あたらなかったり、リストアップに疑問がある場合もあるが気がついたところは備考に注記しておいた。

表の遺構の配列については、先の徐らの作業ではランダムの部分がかなりあるので新しく配列しなおした。周原の銅器を論ずる研究者達によると、岐山県と扶風県の県境となる七星河と東の美陽河の間、岐山県の王家嘴と扶風県の斉村を南限とし、北は鳳雛、雲塘あたりが中心ということなので、最初にとりあげこの一帯だけは岐山県の遺構の次に扶風県の遺構をとりあげ、傾向がなにか読みとれるか、読み易いように心がけた。その後は岐山の西北から南へ、さらに東へ進み、扶風県では基本的に北から南へ、西から東へと配列した。



挿図1　周原と豐・鎬

陳全方によると広義の周原は鳳翔、岐山、扶風、武功四県の大部分、さらに宝鶏、眉県、乾県三県の小部分からなり東西長約70余km、南北幅約20余kmという[13]。関中平原の西部、渭河以東、漆水河以西、渭河の北、岐山以南にあたる（挿図１）。岐山、扶風両県の次には眉県・宝鶏・武功の資料をあげた。さらに東して文王・武王の豊京・鎬京の地である灃水の辺の長安県張家坡一帯、東して戯水の川口の臨潼、驪山の南の藍田をあげた。さらに礼泉、乾県、岐山の北麓の永寿、麟游の資料を並べた。渭河に流れこむ漆沮水の流域にこれらの遺構はあてはまろうか。西周の銅器窖藏の集中するところは以上にあげたようなところで、後に掲げられる場所ほど希薄になる。さらに涇水を越えた銅川の例をあげ、陝西省の東北、洛河と黄河に挟まれた延長・清澗、子長、綏徳と北に向かった。最後に秦嶺の南、漢水の上流にそそぐ渭水河の河口両岸の城固の遺構群をあげてある。表の編号のところでは窖藏番号の前に県名の頭を示した。

窖藏名の頭には２ケタの数字で発見年を示した。78は1978年の略で、06は2006年を意味する。出土数は土器に入れられて、あるいは土器も窖藏している時は含めて数えてある。

林氏は『殷周青銅器綜覧』１の中で殷前期、殷中期、殷後期、西周ⅠＡ・ⅠＢ、西周ⅡＡ・ⅡＢ、西周ⅢＡ・ⅢＢ、春秋Ⅰとわけている。殷前期は二里頭の、殷中期は鄭州二里崗の資料を念頭に置いている。殷後期はⅠ・Ⅱ・Ⅲとし大司空村一期にⅠが、二期・三期にⅡＡ・ⅡＢが、大司空村四期に殷後期ⅢＡ・ⅢＢがほぼ対応する。婦好墓の青銅器はⅡを中心としている。一方西周のⅠ・Ⅱ・Ⅲ期は殷の年代比定の仕方とはまったく異なる。西周時代をB.C.1027年～B.C.771年と想定し、殷代の時期区分が一応土器編年と対応するよう考慮されたのに対し、機械的に各時期80～90年に等分したとある。林氏自身はなにも言ってはいないが、西周の年代区分の背後には陳夢家の「西周銅器断代」[14] で表明された年代が考慮されていたのはまずまちがいなかろうと思う。現在の断代工程の成果は殷周革命の年は、B.C.1050～B.C.1020年の間のいずれか（B.C.1046年説が穏当とか）とした[15]。また穆王、厲王の支配年を55年、37年と『史記』周本紀の年数をそのままとって、陳夢家の各王の支配年と大幅に異なるところがある。

林氏の『綜覧』１は1984年に出版されている。それ以後出土の資料は当然とりあげられていない。また1984年以前のものでもとりあげられていない資料もある。それらの型式判定は林氏の図版を参考にしながら筆者が行った。それらについてもし判定に誤りがある場合は筆者の責任である。それに附随して、例えば判定がⅡＡかⅡＢか悩んだ時は、ⅡＡかとしたりⅡとした。器形によっては林氏の型式編年はⅡとⅢとがあるが、Ａ．Ｂわけまではしていないものもある。簠、盨、大型盂、鐘などが代表例で、資料を充実させて細分化の必要なものがまだあるということだ。後で少し述べるが扁盉のなかに春秋Ⅰとして春秋期に下げられている例がいくつかある。胴部が扁円筒形を呈するこの盉は、林氏によれば新しい器形の出現としてそれ以外の検討はなく春秋期に時代を下げられているが、近年相つぐ資料の出現から、それが登場したのは少くとも西周ⅢＡかⅢＢの段階にあったと考えた方が良いと思う。なお念のために、殷後期の欄ではⅡ期の場合（Ⅱ）

で示した。西周（Ⅲ）も西周Ⅲ期を示す。その後の２とか４の数字は出土した銅器の数を表わしている。

手持ちの資料で陝西省でこれまで発見された170箇所の殷周時代の銅器の窖藏遺構を得た。そのうち129箇所が岐山と扶風の両県に集中している。周原が古公亶父の時代から文王・武王が豐・鎬に都を遷した後も、西周が滅びる直前まで文化の中心地域であったことを示している。

表を読む（１）　城固、藍田

窖藏銅器の時期別表をみるとそのあり様からいくつかの地域に大別できる。広義の周原とそれに類似する性格をもつ豐・鎬地区については次にまとめて検討するとして、ここではそれ以外の地域について要約しておきたい。

南からまず秦嶺の南、漢水上流に流れこむ渭水河口に位置する城固では、獣面や人面の仮面とともに長江中流域と親縁関係にある殷様式の銅器群の窖藏が集中して見られる。それらの中には戣や鉞など特色のある青銅兵器も含まれていて扶風五郡西村の矛の例などを除くと周原ではほとんど見うけない組合せから成り立っている。別稿[16]で述べたが城固出土の獣面とほぼ同じ類の仮面が西安市灞橋区洪慶郷老牛坡M10号商墓から出土している。殷墟文化一期晩段かやや遅れる頃かと報告はいう。また人面のミニチュア化したものが老牛坡M41号墓から２件出土している。[17] 老牛坡墓群について殷墟期の早い段階に商人の勢力圏の西端に含まれていたか、商に服属していた崇方（崇虎侯の領有する地であったか）や西土三亳の一である亳の可能性も論じられている。[18]

城固の地域から渭水河を溯って秦嶺を越え、新たに川の流域沿いに下ると灃水の西近くの渭水にたどりつく。そこから西安は近い。殷墟期の早い段階にこのルートが開かれていた可能性は高いと考える。

城固一帯の窖藏坑出土の銅器群は、罍、尊、瓿といった大型酒器が中心で先にも触れたが戣などの武器、人面や獣面の仮面を伴う特色をもつ。尊は殷後期Ⅱ〔林は西周ⅠＢ～ⅡＡのものの模倣という（林巳奈夫「華中青銅器若干種と羽渦紋の伝統」『泉屋博古館紀要』第十巻、1994）〕の模倣から生れた肩に羊犠首をのせるかわりに水鳥形犠首になるもの、これはよく知られているように四川三星堆の一号・二号祭祀坑と呼ばれている遺構からも出土している。[19] 長江中・下流域で生れた青銅器が漢水を使い、城固を経て岷江を南下して三星堆に伝わるルートがあった。瓿は殷後期ⅢＡのものとともに、それを模して作った地方形と林氏の呼ぶものとが併存している。尊や人面の仮面など華中の青銅器文化が生んだものだ。これらの窖藏といわれるものが渭水河の河口に近い両岸から発見されるということは、これらの青銅器が渭水河または漢水に対する祭祀行為に使用されたもので、河を祭るために仮面をつけ武器をもち酒を飲んで祝い、願いをこめて祭りに使った銅器を一緒に埋めた。周原の窖藏銅器に対して宗廟の祭器を隠匿したというのとは異な

陝西省発見窖藏

編号	窖藏名	出土地点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
岐1	78鳳雛1号	西周甲組宮室へは東南200m、75董家1号とは南へ500m、同一台地上鳳雛村の西200m。	隅丸長方形、南北長0.65、東西幅0.53、深0.5m。四壁を整える、もとの深さ約1.5m。	5		
岐2	75董家1号	董家村の西150m、西周居住址の北辺。	口小底大。南北口長1.15、北幅1.20、南幅0.85m、南北底長1.30、北幅1.30、南幅0.95m、深1.14m、地表より坑口まで0.35m。花土で充填している。	37		
岐3	55賀家1号	賀家村西土壕		2	戈甗(Ⅲ) 𠂤卣(Ⅲ)	
岐4	67賀家2号	賀家村北水渠		1		
岐5	74賀家3号	賀家村北土壕		1		
岐6	74賀家4号	賀家村東		3	饕餮紋鼎(Ⅱ)	雲雷紋鼎 觶
岐7	74賀家			4		
岐8	64賀家5号	賀家村北土壕		3		小型盂
岐9	76賀家7号	賀家村北壕		2		
岐10	81賀家8号	賀家土壕		1		
岐11	73賀家9号	賀家村西		7		
岐12	93賀家11号	岐山県文管所東10m		4		
岐13	66賀家	賀家村西50m		3		
岐14	66賀家	賀家村西土壕		9		
岐15	礼村1号					
岐16	礼村2号			1		王作中姬方鼎

銅器時期別表

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文献	備考
			伯寛父盨2 伯尚鼎 窃曲紋簋	夔紋甗(Ⅲ)	文物1979－11 陝西出土商周青銅器3	窖藏平面図あり
		五年衛鼎 九年衛鼎 廿七年衛簋	十七年此鼎3 十七年此簋8 仲涿父鼎 亞鼎 窃曲紋鼎 重環紋鼎2 廟孱鼎 成伯孫父鬲(Ⅲ) 榮有司再鬲(Ⅲ) 公臣簋4 仲南父壺2 三年裘衛盉(Ⅲ) 鑿(Ⅲ) 盤 豆(Ⅲ)2 儹匜	伯辛父鼎 旅伯鼎 旅仲簋	文物1976－5	窖藏平面図あり 林は盉とする
					陝西出土商周青銅器1 青銅器図釈	
	牛形尊(Ⅱ)				陝西出土商周青銅器1	
	作彝爵(Ⅱ)				陝西出土商周青銅器3	
					考古与文物1994－3	吉金鋳国史の記載誤りあり。
			伯嗄父鼎		陝西出土商周青銅器3	他に管柄勺と大銅泡2を伴う
					考古与文物1994－3	2件は資料なし
			鬲(Ⅲ)		考古与文物1994－3	觧の写真・図なし
					吉金鋳国史	器類不詳という
					吉金鋳国史	器類不詳という
					吉金鋳国史	器類不詳という
					吉金鋳国史	器類不詳という
					吉金鋳国史	器類不詳という
大盂鼎(小盂鼎)						清道光初年出土
					陝西出土商周青銅器1	1949年10月以後出土

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
岐17	53礼村３号	礼村東南土壕		5	觚(Ⅱ)	方鼎 魚觧·𠭯爵 子異尊
岐18	57礼村４号	礼村土壕		2		
岐19	77礼村５号	礼村土壕		1		
岐20	73喬家１号	喬家村土壕	灰陶の罐の中から辻金具の類	135	商末あるいは周初という	
岐21	72京当村	村の麦打場	圓石を積み重ねた窖穴中より	6	鬲鼎(殷中期) 鬲(殷中期) 觚(殷中期) 爵(殷中期Ⅱ) 斝(殷中期) 臣戈(殷中期)	
岐22	74北窑			1		夔龍紋鼎
岐23	74王堯１号	王堯村土壕		1		
岐24	72劉家１号	劉家村西土壕		3(戈 斧2)	戈(殷中期)	
岐25	73劉家２号	劉家村土壕		1		
岐26	81劉家		中庭で土取り中発見	3		
岐27	53王家嘴１号	王家嘴村北		6		
岐28	77王家嘴２号	王家嘴村北土壕		3	鼎(Ⅱ)	
岐29	57王家嘴	王家嘴村		251 (鑾鈴2・当卢2・圓泡86・長方泡60)		
岐30	双庵	青化双庵村	解放前	1		
岐31	青化	青化村	解放前	2		
扶32	74斉家１号	扶風斉家村東南土壕		1		渦紋罍
扶33	58斉家２号	斉家村東南土壕		4		
扶34	60斉家３号	斉家村東南180ｍ	窖穴は上は小、下は大。圓袋形口径0.8、底径1.25ｍ、地面から深1.1ｍであらわれ、窖の深は1.44ｍ。	39		

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
					陝西出土商周青銅器1 青銅器図釈	
	弓鼎2				考古与文物1984－5、1994－3	
			窃曲紋鼎		考古与文物1994－3	
					考古与文物1994－3	
					文物1977－12 陝西出土商周青銅器1	
					考古与文物1994－3	吉金鋳国史では北堯
					吉金鋳国史	器類不詳
					考古与文物1994－3	
			窃曲紋鼎(Ⅲ)		考古与文物1994－3	写真も図もない
	叔𠭯父簋(Ⅱ)・伯好父簋盖(Ⅱ)		窃曲紋鼎(Ⅲ)		考古与文物1984－5	鼎の写真なし
鼎・簋					陝西出土商周青銅器1	戈・戟・圓泡・鏡
					陝西出土商周青銅器1	斧2
					考古1960－8	報告では車馬坑
	□𣪘簋(Ⅱ)				考古1959－11	器の写真なし
				善夫吉父盂	考古1959－11	善夫吉父𩰫盖も同出か
					陝西出土商周青銅器3 文物資料丛刊2に別の罍2件あり	吉金鋳国史は36年冬2件とする。
			它鬲(Ⅲ)2・環帯紋盂(Ⅲ)2		陝西出土商周青銅器2	
			弦紋鼎 叔□父鼎 中友父簋2 友父簋2 瓦紋簋4 貫耳壺2 幾父壺2 中友父盤 中友父匜	伯邦父鬲(Ⅲ) 仲伐父甗(Ⅲ) 弦紋甗(Ⅲ) 弦紋盂(Ⅲ) □簠(Ⅲ) 夔紋罍(Ⅲ)2 柞鐘(Ⅲ)7 鐘(Ⅲ) 仲義鐘(Ⅲ)8	扶風斉家村青銅器群 文物1961－7	

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ＩＡ
扶35	61斉家４号	斉家村東南120ｍ		4		
扶36	63斉家５号	斉家村東土壕		6		
扶37	66斉家６号	斉家村北200ｍ	建築遺址内の灰窖中より	2		
扶38	82斉家７号	斉家村の西、学校の後	西周晩期文化層の頂部に開口している。地表から約１ｍ、鼎は倒置され、内に盨。銅器から１ｍ弱の南に大型三足陶瓮２、さらに西南10（１？）ｍで大型陶繭形壷１。銅器の周囲は黄土で塞いでいる。	5		
扶39	84斉家８号	斉家村東土壕	長方隅丸土坑。壁面も整形されていない。地表より90㎝で開口、西周晩期文化層の頂部より掘りこむ。東西長72、南北幅58、深さ40㎝。	7		
扶40	93斉家９号	斉家村東北土壕		1		
扶41	95斉家10号	斉家村東北土壕		1		
扶42	97斉家11号	斉家村東北土壕		2		
扶43	79斉家12号	斉家村東		1		残方尊口縁部
扶44	78斉家	斉家村東壕（採集）		4		
扶45	72劉家１号	劉家村北土壕	土壕内の灰窖中より。３件重なる	3		
扶46	73劉家２号	劉家村東北幹渠内	水渠内の灰窖中より倒置した状態	1		
扶47	94劉家３号	劉家村正南300ｍ	圓形、径60㎝、底まで地表から140㎝五花土で満たす。大型建築基址あり。６個礎石一列、板瓦、筒瓦など	1		
扶48	76荘白１号	荘白村南100余ｍ	斜面に平面長方形、南北長1.95、東西幅1.1、深1.12ｍ。窖口は地表下、浅いところで0.26、最深のところで0.45ｍ。耕土層の下に開口、西周晩期文化層を打破している。四壁もおおまかに整えられ倉卒に造られた感じ。もとは地形はもっと高く、深く埋められていたものが雨水で西周晩期より上部の文化層は削ってしまった。窖の南面60余ｍのところで南北方向の石柱礎６個を発見。礎石間は３ｍ。附近より板瓦、西周大型建築基址が存在。当時の房屋の近くに埋められたことを示す。大を先に小を後に、重を先に軽を後に、窖の底部、四周と器物のあきには草木灰をつめ器物の損壊を防いでいる。	103	圓鼎（Ⅱ）	

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
				琱我父簋4	文物資料丛刊2、考古1963－10	吉金鋳国史3件となる
	天(日己)尊	天(日己)方彝(Ⅱ) 天(日己)觥(Ⅱ)		匜(Ⅲ)	陝西出土商周青銅器2 文物1963－9	它盤・它盉は春秋Ⅰ
	甬鐘(Ⅱ)2				考古与文物1980－4	写真・図なし
	鳥紋鼎(Ⅱ)			瓦紋盨	考古与文物1985－1	吉金鋳国史は土器に触れない。
			環帯紋方座簋4(うち2は蓋を欠く)	琱我父簋蓋3	考古与文物1985－1	窖藏の断・平面図あり。填めもどした土の中から骨鏃など骨器4件
					吉金鋳国史	鼎1は未発表
					吉金鋳国史	戈父己鼎、未発表
					吉金鋳国史	罍2、未発表
					考古与文物1982－2	
	車害・車轄(Ⅱ)2				考古与文物1982－2	車害・車轄、害、銮鈴
	甬鐘(Ⅱ)		重環紋鏡(Ⅲ)		考古与文物1980－4	車害の写真なし
			環帯紋盂(Ⅲ)		考古与文物1980－4	
王盂底部					考古与文物1998－1	瓦片は西周中晩期という
商尊・商卣	陵方罍(Ⅱ)		方鼎(Ⅲ)		文物1978－3	窖藏の平面図あり
目雲紋觚	鳥紋爵(Ⅱ)		鳥紋觶	微伯鬲(Ⅲ)5	西周微氏家族青銅器群研究	
獸面紋觚	木羊册觶(Ⅱ)		癲簋8	雲紋鬲(Ⅲ)2		
泡形紋觚	鳥紋觶(Ⅱ)		癲盨2	微伯癲豆(Ⅲ)		自銘豆は簠
垂鱗紋觚		豊尊・豊卣	十三年癲壺2	微伯癲匕(Ⅲ)2		
旂斝		貫耳壺(Ⅱ)	微癲釜2	癲爵(Ⅲ)3		
旂觥	豊爵(Ⅱ)4		三年癲壺2	癲鐘(Ⅲ)14		
旂尊	墻爵(Ⅱ)2		伯先父鬲(Ⅲ)10			
旂方彝	史墻盤(Ⅱ)		鈴(Ⅲ ヵ)7			
旅觚	孟爵(Ⅱ)		獸面紋斗(西周)			
鳥紋觚2	⋈爵(Ⅱ)		龍面紋斗(西周)3			
	雲紋編鐘(Ⅱ)7					

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
扶49	76莊白２号	莊白村西北300ｍ	西北土壕断崖上に窖を発見。平面梯形、口径96×60㎝、底径80×56、深98㎝。西周晩期灰坑を打破。五花土で填め、銅器はあわただしくほうりこまれた様子。窖穴北10ｍのところに大灰坑、大量の板瓦、近くに大型の建築遺址の存在をうかがわせる。	5		
扶50	77莊白３号	莊白村南300ｍ土壕	灰坑中から焼土塊、路土塊、草木灰などと一緒に鼎足が出土	1		饕餮紋鼎足(Ⅰ)
扶51	46莊白４号	莊白村東北土壕	鼎は灰窖中に置かれていた	1		
扶52	63莊白５号	莊白村西南土壕		1		
扶53	81莊白６号	莊白村東北土壕		1		
扶54	63莊李１号	莊李村東土壕	土を掘り肥料を施している時	5		
扶55	80莊李２号	莊李村東土壕	灰坑中から発見	1		父己爵(Ⅰ)
扶56	83莊李３号	莊李村北100ｍ		3		
扶57	33康家１号	康家村東土壕	麦を碾で圧して脱穀している時突然ぽっかり開いた竪坑に陥ちこみ窖洞のようなところに整然と層をなして積んである青銅器群を発見。埋蔵したといったものではなくて土をかぶっておらず、さびもつかず鋳た時の輝く銅色を発していた。	100余件		
扶58	66康家２号	康家村東土壕養豚場	土地を耕作中、犁頭にひっかかる	1		
扶59	72康家３号	康家村西溝辺	地面から１ｍ足らずの穴ぼこから	1		
扶60	1890任家１号	任家村東南土壕		120余件		
扶61	40任家２号	任家村西南土壕	柬鼎は開放前地窖から発見された。同時に窖藏銅器銅目録板一具が出土、上には窖藏器物の名称があったが農民が落してこわしたという。	100余件		

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
	與仲雩父方甗(Ⅱ)		窃曲紋簋 仲太師盨 重環紋匜	密姒簠(Ⅲ)	文物1978－11 陝西省出土商周青銅器2	窖藏の写真・平面・断面図あり
					考古与文物1982－2	
		夔紋鼎			考古与文物1980－4	
		蟠虺紋鼎			文物1963－9	
			五祀㝬鐘		西周青銅器年代綜合研究	吉金鋳国史では王祀
			窃曲紋鼎	重環紋簋4	文物1963－9 陝西出土商周青銅器3	
					考古与文物1982－2	
					吉金鋳国史	簋2・簋盖1、未発表
				函皇父鼎2 函皇父簋 函皇父盤 函交仲簠(Ⅲ) 雲紋方甗(Ⅲ) 伯鮮鼎 雲紋簋 伯鮮甗(Ⅲ)	青銅器図釈 文物1951－10	1870年ごろと1933年の2度にわたって発見されたともいう。 雲紋簋は同坑出土といわれる。 函皇父器組は26件
㝬駿觥盖					文物1972－7	
				鄦妘鼎	文物1973－11	二次的埋藏、1号のものか
				大克鼎 克鼎7 克盨2 中義父器	商周彝器通考	
柬鼎			弦紋鼎・甬鐘(Ⅲ)	禹鼎 梁其鼎2 梁其壷 吉父鼎	青銅器図釈 考古与文物1980－4 文物1963－3	朱鳳瀚は60余件という 善夫吉父器組 柬鼎は1号のグループ?

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
扶62	81任家３号	任家村北200ｍ	西周地層中、地表深50㎝のところ	1		
扶63	60召陳１号	召陳村西南150ｍ	草を根もとから刈っている時発見	19		
扶64	62召陳２号	召陳村西南大路	道路修理時、西周瓦片の堆積と	1		
扶65	72召陳３号	召陳１号北50ｍ	銅餅	1		
扶66	73召陳４号	召陳村西北土壕	瓦片の堆積の厚い西周建築遺址中	1		
扶67	98召陳５号	召陳村西偏北50ｍ	召陳甲区大型建築群基址の西側土壕断崖内、地表より深1.2ｍ	1		
扶68	66斉鎮１号	斉鎮村東“街道”	出土時、豆は鐘の一つにはさまっていた。	3		
扶69	81斉鎮２号	斉鎮村北350ｍ	灰坑は西周晩期文化層に開口。鍋底形、上径約２ｍ、坑底地表から２ｍ。地表から1.2ｍのところで出土、多数の陶片、廃骨料がまじる	1		
扶70	76雲塘１号		土を掘って肥料を施している時	9		
扶71	77雲塘２号	１号窖藏の南20ｍ	村の南、何家溝の崖の土取りをしている時	1		
扶72	81雲塘３号	雲塘村東南	土地をならしている時、窖穴を発見	2		
扶73	50雲塘	雲塘村		2	父丙尊(Ⅲ)	
扶74	58雲塘	雲塘村南		1		
扶75	81務茲１号	下務茲村東南200ｍの下漩渦溝に位置	窖穴は文化層が流出し耕土層下に開口。圓筒形、口大、口径1.2、深1.5ｍ。坑壁不整、内に五花土。周囲に一群の灰坑。建築基址近く。	2		
扶76	85務茲２号	務茲村北壕北崖		1		
扶77	74強化１号	黄堆雲塘強化	窖口は地表より約1.2ｍ、鼎は上向き、窖内中部北より、簋、簋盖、豆は鼎内に、鐘は鼎の南	7		
岐78	74張家場１号	北郭張家場村土壕		2		蕉葉紋觚・

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
			双頭獣紋簠(Ⅲ)		考古与文物1982－2	
	弦紋鼎		散伯車父鼎4 散車父壺2 瓚(Ⅲ)2	散車父簋5 𤞷叔山父簋3 瓦紋匜 回紋盤	文物1972－6	
			斜角雲紋鬲(Ⅲ)		考古与文物1980－4	
					中国銭幣1985－2	未見
			鏤孔器座(Ⅲ)		考古与文物1980－4	
			楚公豪鐘(Ⅲ)		考古1999－4	泉屋2を含め他に5（1は偽刻かと）
			井人妄鐘(Ⅲ) 用享鐘・豆(Ⅲ)		考古与文物1980－4 陝西出土商周青銅器3 文物1972－7	用享鐘は別のものか。考古与文物と陝西3の記述があわない。
			伯嘻父簠(Ⅲ)		考古与文物1982－2	
				伯多父盨4 重環紋盨 伯公父盨蓋 伯公父壺蓋 伯公父瓚(Ⅲ)2	文物1978－11 陝西出土商周青銅器3	瓚は林による。報告では勺
			伯公父簠		文物1982－6、陝西出土商周青銅器3	
			大圓鼎足・方鼎足(ⅡB-ⅢB)		考古与文物1982－2	
𠂤方鼎					陝西出土商周青銅器3	
		単　盉			陝西出土商周青銅器3	
			師同鼎 弦紋鼎		文物1982－12	窖藏の断面図あり
					吉金鋳国史	鼎は未発表
	恒簋蓋(Ⅱ)2	師𩛥鼎 即簋	師丞(臾)鐘(Ⅲ) 瓦紋簋(Ⅲ) 鏤空豆(Ⅲ)		文物1975－8 陝西出土商周青銅器3	
父乙爵(Ⅰ$_{ヵ}$)					考古与文物1982－2	写真等なし、報告者による

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
岐79	75北寨子１号	北郭北寨子西溝崖		3	亜竒史鼎(Ⅲ)	鼎・
岐80	75八廟溝１号	北郭八廟溝村		1		
岐81	78北楊１号	北郭北楊村呉家莊		2		
岐82	81曹家溝１号	北郭曹家溝土壕		2		
岐83	77周公廟	北郭周公廟東側		1		
岐84	84廟王村１号	北郭廟王村土壕		1		
岐85	84王家村１号	麥家營王家村土壕		1		
岐86	73東団莊１号	五丈原鎮東団莊村		2		鼎・簋
岐87	92任西１号	任西村磚廠		1		
岐88	78良田１号	良田一組村北土壕		1		
岐89	77魏家河１号	益店鎮魏家河		4		饕餮紋鼎
岐90	70小菅原村	小營原村東		2		
岐91	56呼劉１号	呼劉組土壕		1		
岐92	80流龍嘴１号	流龍嘴村西		1		
岐93	73南祁１号	青化南祁家村土壕		1	小型盂(Ⅲ)	
岐94	58祝家莊	祝家莊		1		
岐95	78周家１号	青化周家村土壕		2		
岐96	52童家１号	丁童家南壕		1		
岐97	84童家二組１号	童家村土壕		3		
98	82祝家巷１号	祝家巷村		2		
99	99蒼頡廟１号	蒼頡廟村東200ｍ		2		
100	85曹家鄉１号	曹家鄉		7		
岐101	91呉家莊１号	呉家莊		2		
扶102	00許家１号	許家村磚廠		1		
扶103	78斉村１号	斉村陂塘西北角	地表から３ｍ深さの灰窖中から	1		
扶104	78斉村	１号の西南25ｍ	灰窖中から。周囲に焼土、陶片	1		
扶105	79斉村２号	１号窖から３ｍ	灰窖中から	4		
扶106	98斉村３号	斉西一組西200ｍ				
扶107	82官務吊１号	官務吊村西南110ｍ	地表より1.8ｍに開口	6		
扶108	78楊家堡１号	楊家堡村南土壕		2か		
扶109	74楊家堡	楊家堡村		2	夔簋(Ⅱ)	庚甗
扶110	73五郡１号	五郡西村東北	斜面の土を取る時、灰窖中から	4		

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
簋(Ⅰ)					考古与文物1982－2、陝西1	考古与文物94－3では4件。小型盂1が伴出
			窃曲紋鼎		考古与文物1994－3	
				王伯姜鼎 窃曲紋簋蓋	考古与文物1982－2	吉金鋳国史では北陽となる
			周郎駒鼎 弦紋鼎		考古与文物1982－2	
弦紋鬲					考古与文物1982－2	
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					考古与文物1994－3	
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					考古与文物1994－3	斧・錛・五孔銅刀
	旅簋				陝西1。吉金鋳国史にない	弦紋鼎
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					考古与文物1994－3	
	弦紋鼎				考古与文物1994－3	
			重環紋盨2		考古与文物1994－3	
		外叔鼎			陝西出土商周青銅器1	文物1959－10にも
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	器類不詳
					吉金鋳国史	丹叔番盂、未発表
			㝬簋		文物1979－4	曹瑋は丰簋・叔簋もと
				豊刑叔簋	文物1979－4	
			四鴨鼎		考古与文物1980－4	車馬器3件
					吉金鋳国史	甬鐘、未発表
			貫耳壺	編鐘(Ⅲ)5	文博1985－1	写真・図なし
					吉金鋳国史のいう文献にない	鼎と盂の残片という
					文物1977－12、陝西3	
			甬鐘(Ⅲ)	仲彫盨2	考古与文物1980－4、陝西3	残跌

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ＩＡ
扶111	73五郡２号	五郡西村北1号から20ｍ		2		
扶112	06五郡３号	五郡西村北台地	窖は地表から1.3ｍで開口、口径0.9、底径1.04、深0.8ｍ、圓形で平底。壁は整えてない。銅器は底につめて置かれていた。鼎、矛、斗、車馬器、玉器などは甬鐘の腹内から	27		
扶113	07五郡紅衛村					
扶114	49東橋１号	七里橋村東土壕	土取り時、発見	1		
扶115	79豹子溝１号	南陽五嶺村豹子溝	道路工事で山の一角を爆破した時	1		
扶116	81溝塬１号	南陽魯馬溝塬村西南	灰坑中、簋盖と陶罐内にノミなど	8		
扶117	92巨良海家１号	巨良海家村磚廠	地表から１ｍ下で甬鐘残块と爬龍が。0.8ｍ離れて入れ子になった甬鐘	4		爬
扶118	76穆家１号	召公穆家大陳村西水渠	水渠を修理中、灰窖中より	1		
扶119	61呂宅１号	召公張黄村西南磚廠		1	貫偁方罍(Ⅲ)	
扶120	72呂宅２号	成王村南土壕	西周縄文大陶瓮中に玉璧１銅錛４、大蚌泡６	12		
扶121	78呂宅３号	胡西村西50ｍ	土地を平らにしている時、灰窖中から。重ねて、上のは倒置	2		
扶122	72北橋１号	北橋村東胡同崖上	崖の頂から約３ｍのところから。近くに西周文化層（灰層長200、厚さ約0.3～１ｍ）あり。	9	𠂤罍(Ⅲ)	
扶123	79小西巷１号	城関馮家台村西100ｍ	斜面で発見。地面より深１ｍの灰窖中から出土	1		
扶124	86袁新１号	袁新村土壕		1		
扶125	73早楊１号	早楊村	土地をならしている時、地面から１ｍのところで灰窖を発見。その中に銅甑があり、内に斧・錛、戈、泡など銅器12件が入れてあった。	13	(錛4、斧、戈2、残鼎足、	
扶126	63孫家台１号	杏林東坡孫家台	一灰窖中より出土	4		
扶127	91大同	段家大同村	堆積した泥土に圧された、もともと地面上にあった自然の小坑内から出土。	1(か)		

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
					吉金鋳国史のいう文献にない	鐘などという
	弦紋鼎 甬鐘(Ⅱ)2		五年琱生尊2 戈小型盂(Ⅲ) 伯澶父小型盂(Ⅲ) 瓚(Ⅲ) 3 甬鐘(Ⅲ) 3		文物2007－8 古今論衡第16期－2007	銅矛12口、車馬器1組103件、玉飾1
					収藏2007－2	文献未見
			白夸父盨		文物1973－11	
			南宮乎鐘(Ⅲ)		考古与文物1980－4	
			王簋盖(Ⅲ)		考古与文物1982－4	銅料3、銅渣、鼎、のみ
龍(Ⅰ)			師寰鐘(Ⅲ) 甬鐘(Ⅲ)2		文物1994－2	甬鐘の一つに銘あり
				重環紋鼎	考古与文物1980－4	
					文物資料丛刊2	
					考古与文物1980－4	
		夔紋鼎		重環紋鼎	考古与文物1980－4	
	甬鐘(Ⅱ)2		白吉父鼎 雲紋盤 帯流盤(Ⅲ)	白吉父簋 重環紋簋2	文物1974－11 陝西出土商周青銅器3	吉金鋳国史は尊2とするが甬鐘2の誤り。出土状況の写真あり。
		夔紋鼎			考古与文物1980－4	
					吉金鋳国史	器類不詳
銅泡、環、銅料2)			窃曲紋甗(Ⅲ)		考古与文物1980－4 陝西出土商周青銅器3	鼎銘に（作）冊微とある。斧と錛以外、西周晩期
				窃曲紋簋4	考古与文物1980－4	吉金鋳国史に盨とあるのは誤り
			宰獣簋		文物1998－8	1991年開渠時に墓から出土したものを臨時に埋め、97年2度目に発見されたと思えると報告はいう。4件か

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ＩＡ
扶128	78東渠１号	上宋公社東渠村東北150ｍ	斜面をならしている時、一灰窖中から陶三足器を発見。内に甬鐘１	2(1は陶三足器)		
扶129	91曹魏１号	上宋曹魏村東北200ｍ	周囲は陶片、灰土の堆積豊富	5(車戈、戈2、削2)		
眉130	55眉県李村		№134の東約600ｍ	5		
眉131	81眉県青化油房堡	渭河から１㎞、渭河２級台地の北縁	窖は圓筒形、中腰少しふくらむ。口径60、深100㎝、壁は不規則。大鼎をおきその中に陶罐、小鼎を上に倒立	3(1は陶罐)		
眉132	72眉站楊家村	遺址の居住区	一灰坑内から出土。地表から約１ｍ。鼎は灰坑内に斜めになっていた。	1		
眉133	85眉站楊家村	№134と60ｍ、楊家村磚廠				
眉134	03眉站楊家村	西周晩期の灰坑で竪坑の上面が打破されていた。	窖底は現台地表から7.6ｍ。底は平ら、不規則な形。頂部はくずれているがもとはドーム状、壁は外ぶくれ。径1.6×1.8、高さ1.1ｍ。壁に工具の痕がよく残る。窖穴の入口は北側にあり床面より20㎝高い。入口はアーチ形を呈し、夯土で封門されていた。	27		
宝135	63宝鶏賈村原賈村	窖藏かどうか不明	崖上の土取り時に発見	1		何尊
宝136	88宝鶏茹家莊		５件の器物は地表2.5ｍからの圓形坑内に、径50㎝。深さ不明。それより50㎝下に鳥形器蓋	6		
武137	59武功浮沱村			21	饕餮紋鼎(ⅢB) 蟬紋鼎(ⅢB)2 □辛貯簋(ⅢB) 小型盂(Ⅲ) 弦紋甗(Ⅲ)	責甲罍
武138	63武功南仁北坡村	土地を平らにしている時	地表から約１ｍで出土。２個の簋蓋を鼎の口上に重ねて置いてあった。周囲はすべて生土。人の動かした気配なし	3		
武139	78武功北里村			13		

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
	甬鐘(鉦間に族徽か)				考古与文物1980－4	荘白微史家族窖藏中の鐘銘に類似の銘あり
					考古与文物1993－3	戈は西周晩期のもの
	盠駒尊・盖(Ⅱ)、盠方彝(Ⅱ)2	盠方尊			陝西出土商周青銅器3	盠方彝も西周ⅡBか
			王作仲姜鼎 窃曲紋鼎		考古与文物1982－2	出土状況復原図あり 埋藏下限は西周末年かという
旟(旟)鼎					文物1972－7	報告は成王時器という
				鑄3 逨鐘4 甬鐘6	文博1987－2	米国へ5件流出 文献未見
	大型盂(Ⅱ)		単叔鬲(Ⅲ)9	42年逨鼎2 43年逨鼎10 単五父壺2 逨盤・逨匜 逨盉	文物2003－6 盛世吉金	竪坑の底に近い側面に横坑を掘りこむ方式は函皇父器群の出土した康家でみられるのと同じようなあり方か。 逨盉は林だと春秋Ⅰ
					文物1966－1、馬承源中国青銅器研究	銘は馬承源の発見
	鳥形器盖(Ⅱ)		魚尊・虎・犬・鹿(Ⅲ) 刖刑奴隷守門方鼎(Ⅲ)		考古与文物1990－4	
					陝西出土商周青銅器1	礼器7、戈、斧、錛、ノミ、鈴など兵器・馬車器・生産工具など14件
		師瘨簋盖2		重環紋鼎	文物1964－7	
			楚簋4 芮叔簋3 㝬叔㝬姬簋3 㝬叔㝬姬簋盖3		陝西出土商周青銅器4	

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ＩＡ
長140	61長安張家坡		坑は長方形、長1.2、幅0.8地表から0.9ｍ。銅器はおおまかに２層にわかれる。ただ南端だけ５層にわかれる。凡そ一家の所作のものは一緒に組を成していた。	53		
長141	65澧西大原村		農民が土を掘っている時発見	2		父癸尊 子尊
長142	67澧西馬王村			6		
長143	73澧西馬王村	張家坡窖藏の西34ｍ、澧河以西、客省庄以南、関道村（馮村）以北、張家坡以東は豊京遺址の所在するところという。	平面楕圓形、東西長1.5、幅1.4ｍ。壁は垂直、他にものを見ない。底は平らで地面から約２ｍの深さ。３号鼎は１号鼎内、２個の車軎はひとつの簋の中に。他の器物はすべて坑底に。周辺400㎡をボーリング、いくつかの灰坑を発見したが、夯土とか建築遺址はなかった。	25		
長144	67澧西新旺村	村の西北200ｍ	土を掘っている時、地面から深さ２ｍのところで掘りだした。匜は盂内に、盂は倒置	2		
長145	73澧西新旺村	村の北の73ｍの南斜面。上層は10㎝の表土、下に80～90㎝の漢代瓦と周代陶片の層、その下に開口	地表より約１ｍ、平面不規則な圓形、径約1.2ｍ、坑底は地表より深さ2.1ｍ、底は平らやや内に収まる。盂は鼎内に、ともに倒置。	2		饕餮紋鼎
長146	79澧西新旺村			4		
長147	80澧西新旺村	村南の断崖上		1		
長148	82澧西新旺村	80年発見の銅鐘より西南100ｍ足らずのところ	小鼎は大鼎の腹内、大鼎は窖穴内にふせて置く。西周晩期灰坑中から	2		𠬝鼎

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
		孟簋3 白壺2	伯庸父鬲(Ⅲ)8 斜角雲紋鬲(Ⅲ)2 元年師旋簋4 五年師旋簋3 白喜簋4 匕(Ⅲ)5・豆(Ⅲか) 伯百父鎣(Ⅲ) 伯庸父盉(Ⅲ) 瓚(Ⅲ)2　瓚(Ⅲ)2 圓錐形杯(Ⅲ)5 伯百父盤 筍侯盤	伯梁父簋4 窃曲瓦紋簋4	長安張家坡西周銅器群	銅器出土状況図あり 張家坡M183号 洞室墓は西周中期 孟員〔孟狸父〕の墓
					文物1986－1	析子孫形の族徽
	耤壺(Ⅱか)2	夔紋鼎	鄦男鼎 弦紋鼎(Ⅲ)		考古与文物1984－1	弦紋鼎写真なし 耒罍は類例なし 土器を模倣したものか
	夔紋甗(Ⅱ)・Ⅳ式鐘(Ⅱ)4	□鼎 夔紋鼎	衛鼎 衛簋4 壬嬰簋2 鐘(Ⅲ)6・環帯紋壺(Ⅲ) 姞□母匜 夔紋盤		考古1974－1	Ⅰ式鐘は春秋Ⅰ期 車害２件を含む 報告では幽王滅国時の窖藏というが、林の編年では鐘に春秋Ⅰに下るものがある。壺も類例をみない。春秋に下るか。
			逋盂(Ⅲ) 匜		考古1977－1	
			環帯紋大型盂(Ⅲ)		考古1974－1	出土状況の写真あり
					考古1983－3	３鼎１壺、詳細不明
					考古1983－3	鐘１、詳細不明
				册宁戈鼎	考古1983－3	

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
臨149	76臨潼零口西段村	東500ｍを零河が流れる二層台地上	断崖に残る坑の痕跡は深さ２ｍ、幅0.7ｍ	64＋91(銅管状絡飾)		利簋
藍150	63藍田輞川新村	輞川河東岸第二台地上	深耕整田時発見	1		
藍151	72藍田黄溝村北			5	小型盂(Ⅱ)	
藍152	73藍田草坪		山の斜面で土地を耕している時に発見。農耕土の下は岩石層、他になし	1		
藍153	73藍田懐真坊			9	弦紋鼎(殷中期)	
藍154	74藍田紅星		山坡の積土を整理中	1		
礼155	71礼泉泔河壩			5		鼎2・小型盂3
礼156	77礼泉朱馬嘴			7	甗(Ⅰ)・觚(Ⅰ)	饕餮紋鼎
乾157	70乾県臨平			4		夔紋鼎2・簋 饕餮紋鼎
永158	62永寿県好畤河			3		
永159	62永寿県好畤河			3		
永160	67永寿県好畤河			7(以上)		
麟161	88九成宮鎮后坪村四嶺山	岐山の北麓、杜水河床から高500ｍの半山腰その斜度30° 河を隔てて相望む馬鞍山村附近でも70年代７件の西周青銅器が出土	もとは深く埋められていたが、水で土が流れ窖口は地表から31㎝、不規則な方形坑で、長97、幅88、深さ73㎝。坑壁は修整なし。器物は乱雑に一層密集して置かれていた。	10		北鼎・甗 □爵・戈盉 卣・□卣 □尊・隹觶 卣・斗
銅162	84銅川耀県丁家溝	西面は一望無際の渭北高原、南は沮水、漆水があつまって流れている。窖の周囲はやや高く開けたところ	土取り時発見、青銅器上には薄い青石板が覆っていた。	6		

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
				匽車父壺2	文物1977－8 唐蘭は利器いがいは西周晩期のものという。	陳侯簋、王盉、甬鐘13は春秋Ⅰ期 銅工具23・兵器7・車馬器14・銅餅・銅器座
				弭伯簋	文物1966－1	1959年弭叔簋など16件出土した寺坡村へは13km
					陝西出土商周青銅器1	戈・錛・削2
			㝬叔鼎		文物1976－1	
					陝西出土商周青銅器1	斧・錛・刀2・ノコギリ・戮・鉞・石磬
			応侯鐘(Ⅲ)		文物1975—10、文物1977—8	中村不折藏と2個1セット
					陝西出土商周青銅器4	
					陝西出土商周青銅器1	錐足鼎・爵・戈・鏃は未収録
					文物資料叢刊2	
			仲枏父匕(Ⅲ)		陝西出土商周青銅器4	窃曲紋盂・窃曲紋鼎残破、未収録
			仲枏父鬲(Ⅲ)2·白考父簋盖(Ⅲ)		考古与文物1985－4	武功県文化館徴集
			仲枏父鬲(Ⅲ)3	仲枏父簋	陝西出土商周青銅器4	西安文管委鬲1、上海博物館鬲1、故宮博物院簋1をそれぞれ収藏
					考古1990－10	周人と犬戎が戦争を行った前線陣地という
	甬鐘(Ⅱ)4		殷簋2		考古与文物1986－4	

編号	窖　藏　名	出 土 地 点	窖の規模・状況	出土数	殷後期	西周ⅠA
延163	88安溝郷岔口村	寨子山以南の下坪山の丸い頂き、現耕地		16(戈1・圓形金飾片1 帶形金飾1・削1)		父丁盉 饕餮紋觥
清164	64清澗県張家坬			8	有肩尊(Ⅰ) 勾連雷紋瓿(Ⅰ) 亀魚紋盤(Ⅰ) 饕餮紋觚(Ⅱ)	小型盂(直線 弦紋罍
清165	77清澗県解家溝			12	饕餮紋鼎 鬲鼎(ⅠB) 小型盂(Ⅱか) 簋(ⅢA) 甗(Ⅲ) 瓿(Ⅰ)・壺(Ⅰ) 壺(Ⅲ)・觚2 盤(Ⅰ)・勺	
子166	47子張県李家塌村			30余	鼎・小型盂 爵・觚・斝	
綏167	65綏徳県塢頭村			24	天鼎(Ⅰ)・瓿(Ⅰ) 爵(Ⅰ)・觚(ⅢB) 壺(Ⅱ)・小型盂(Ⅱ)	
城168	64城固県五郎廟	修路時	文物では罍1、兵器21となる	7(22)	瓿(地方形)	
城169	75城固県五郎廟			2	瓿(ⅢA)	
城170	63城固県蘇村	胥水河東岸乱石の下	出土時、獣面は尊の内に入っていた	12	有肩尊 (地方形)	
城171	77城固県蘇村			200余	夔紋罍(Ⅱ) 2	
城172	75城固県滑水村			4	鬲鼎(ⅠA)	

西周ⅠB	西周ⅡA	西周ⅡB	西周ⅢA	西周ⅢB	文　　献	備　　考
			旅鬲(Ⅲ)·獣面紋鬲(Ⅲ) 圓錐形杯(Ⅲ)2	重環紋簋2 叔名父簋2 蘇匍壷	考古与文物1993－5	環首柄釜は把手の先がペニス状になり南山根と似る。 金飾片は北方系
紋簋)(Ⅰ)					陝西出土商周青銅器1	2器は未収録、直線紋簋は北方系の人の改造品と林澐はいう。
					陝西出土商周青銅器1	
					考古与文物1989－5	現存8器、戈2を含む 殷後期Ⅱが主体か
					陝西出土商周青銅器1 文物1975－2	鏃7件を含む。他は勺・戈・戚・鄉戚・蛇頭剣・馬頭刀・ノミ・錛・圓泡3
					陝西1、文物1966－1	戈·矛·鉞·戟·斧2
					陝西出土商周青銅器1	戈を伴う
					陝西1、文物1966－1	尊の他はみな獣面
					陝西出土商周青銅器1	獣面・人面・泡・戟・戈
					陝西出土商周青銅器1	鼎2と有肩尊は地方形

り、河神を祭るために青銅器を埋めたと理解できよう。城固が選ばれた理由は当時、漢水流域から関中へ通じる要衝だったからだと思える。

藍田一帯の窖藏銅器の特色は、殷中期や後期の彝器と武器・工具を伴うグループと西周晩期の彝器が単独で出土するのとに二極化している。どちらの場合も地形を含む詳細な情報を欠くので推測の域をでないが、西周晩期の㝬叔鼎や応侯鐘は山の斜面、弭伯簋は輞川河の第二段丘上といった宝器の隠匿・埋藏といったものとは場所がちがうのではないかという気がする。山の神、河の神に対する祭祀行為として奉献されたものが、たまたま発見されたと考えた方が良いのではなかろうか。殷代の場合も対象を限定しがたいが同様な意図があったのかも知れない。弭伯簋が東岸から出土した輞川河谷は、それを経て武関に出るのが古代の関中から江漢平原へでる捷徑だったという。[20] 漢水に流入する丹江上流に通じたものと思える。近くに弭叔簋など16件が過去に知られていることから一帯は宣王の時代、弭氏の領有するところであった可能性は高い。

なお文革中に藍田県洩湖郷洩湖村で発見された永盂（西周Ⅱ）も呉鎮烽によれば窖藏となっている[21]が詳細が不明なのでリストアップしなかった。

表を読む（2）　臨潼、麟游、銅川

驪山の北麓、渭河にそそぐ戲水と零河に挟まれ東の零河まで500ｍの河岸台地上に、西周と春秋の土器片を含む文化層が耕土の下に薄くある。近くに西周前期の墓葬も一基過去発見されたという場所で窖藏が発見された。[22] 礼器18件のほかは大量の銅工具・銅兵器・銅車馬器や銅原料である銅餅も含まれている。礼器の中に周初の重器と目される利簋は「珷征商、佳甲子、朝歲鼎克聞、夙又商、辛未、王才嶌𠂤、易又事利金、用乍旟公寶⿰阝尊彝」とあり[23]『尚書・牧誓』の‘時甲子昧爽’、『周書・世俘』の‘甲子朝’を裏づける重要な資料となった。ただ同出している「㜸公乍王嬀媵𣪘」や「王乍豐妊単般盉」の銘をもつ簋や盉は林巳奈夫の編年では春秋Ⅰ期に下る。甬鐘13件も春秋Ⅰ期のものである。銘を解釈した唐蘭は利簋が周初のほかはすべて西周後期のもので、この家族が世代保存してきたものを窖に入れたものだろうという[24]が、報告者は陳侯簋と編鐘は東周初期の可能性があるとしている。郭沫若によれば宗周の王畿は犬戎の侵入により毀滅した筈だが、至近の距離の臨潼で周初の重器が春秋期まで伝世した、なぜあり得たのか。報告者は幽王は犬戎に驪山の下で殺された。一帯は殷周期驪戎の根拠地であったが、この窖藏はそれとなんらかの関係があったのだろうかとはいうがそれ以上の答はない。唐蘭は一家のものというが、利、亘車父、陳公〔嬀姓〕（娘の王のために作った嫁入り用の器）、王（曹定雲によれば周王を指し、周王の妃、丰国〔妊姓〕から嫁してきた女性のために作った器という。曹定雲「周代金文中女子称謂類型研究」『考古』1999－６）というのにも窖藏されていた銅器群にも脈絡がない。驪戎の手に落ちた青銅器なのだろうか。銅餅は利が周珷王から下賜された金（銅）なのか、これらすべ

てが再利用されるために貯蔵された可能性は皆無なのか。

麟游県九成宮鎮で村北の四嶺山を犁耕している時に銅器を発見、南北は山、中央を杜水河が流れる。窖藏は河床から約500m高さの山の中腹斜面、30°の傾斜、紅粘土。乱雑に置かれた器物は鼎、卣（そのうち一は斗を内に）、尊は立って置かれていたが他は倒置されていた。両卣と盉は盖・器が合わさっていた。報告者は器物の族徽が一も同じものがなく、窖藏の主人に送られたものか、交換して得たもの、あるいは征伐とか攻戦で獲得したものかとする。出土地は岐山の北麓で、周人と犬戎が戦争中の前線陣地で戦乱中に蒼惶と埋め、再び帰ることがなかったものだとした。[25]

族徽の中には殷の王族を示すものだという意見もあり、莊白１号微史家族窖藏[26]（第１図Ｂ）中の商尊・商卣や微子啓の墓だという長子口墓[27]出土の析子孫方鼎などと同じ析（子）孫形や殷末・周初の戈形あるいは𠂤形などの著名な族徽をもつものが含まれている。戈族の墓葬は涇河の流域の涇陽高家堡[28]で知られており、𠂤族について鄒衡は山西太原近辺の光社文化が出自とした[29]が現在は関中西部の出土が一番多くその一帯が出自の地かと考える人[30]もいる。戈族と𠂤族は縁が深く、高家堡墓葬でも４号墓で戈（簋・罍・觶）と𠂤卣が共伴し、岐山賀家１号窖藏でも戈甗と𠂤卣が発見された。

戦乱時蒼惶として埋めたものというよりは、周初に殷遺民達を中核とする族からなる周軍が、出陣し犬戎との交戦の前に白川静のいう望の呪儀のような儀礼を行い[31]、敵を圧服しその儀礼行為に用いた銅器を埋めたものと考えた方がよいと思う。

涇水を越えた銅川の例は東北の大凌河流域に周族が範囲を拡げた時の埋納と同じく、異族に接したある時期の周族の最前線での儀礼に伴う埋納と思われる。

表を読む（３）　延長、清澗、子長、綏德

さらに陝西省の東北、洛河と黄河に挟まれた延長、清澗、子長、綏德では圧倒的に殷代の青銅器が多い。特徴的なのは延長の例で、山の頂きの窖から発見されたのは西周初期の青銅器を一部含みつつ西周最晩期を中心にし、その中に圓形金飾片、帯形金飾、把手の先がペニス状になる環首柄斧など明らかに北方系青銅器文化の影響下にあるものを伴っていることである。遼寧省の大凌河流域の西周中期[32]の銅器窖藏群についても、その性格は種々議論[33]されているが周人の残したものとみるか、土着の魏營子文化の産物[34]かといった立場の相違を生じている場合がある。延長の場合も侵出していた周族が土着の青銅器や金飾片を含めて残した窖藏か、あるいは土着の翟氏が周族の青銅器を手にいれてつくった窖藏かと意見はわかれる可能性がある。

一方、清澗、子長、綏德の例は殷後期の青銅器が圧倒的に多く商文化と土着の北方系文化人との交流で生れた両文化の接触地帯での産物と思える。山西省の汾水流域の霊石旌介[35]では冂小の族

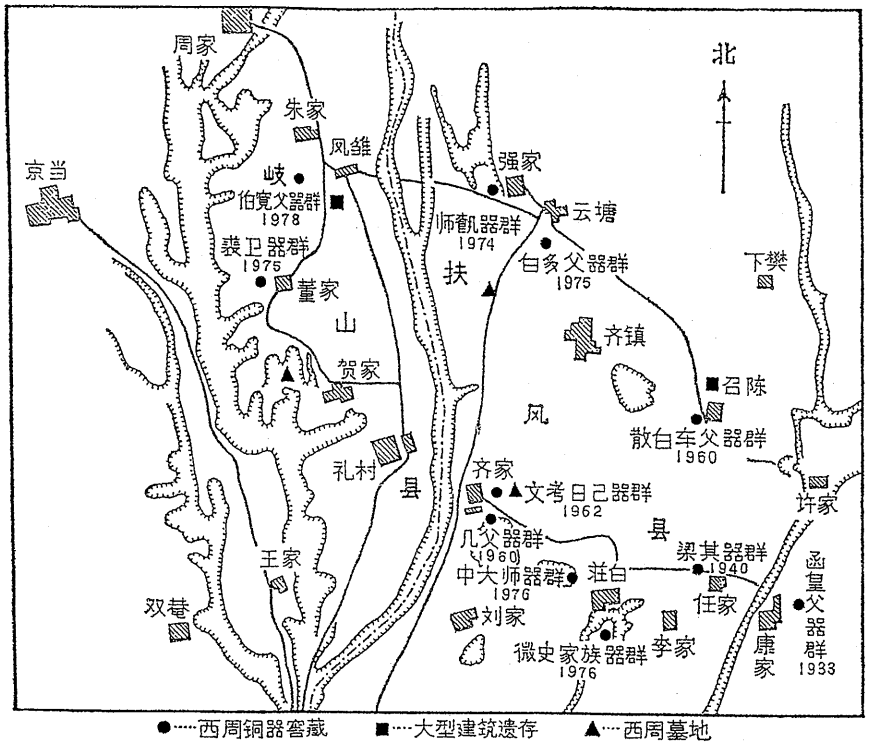
徽をもつ商の方国か、商王の一族からなる駐屯部隊の根拠地かといわれている墓葬がいくつか発見された。報告者は墓主は世襲の辺疆軍事貴族で、商の王族の一つ、丙族に関係するという。汾水中流域、周の厲王が彘に逃れたといわれている場所にほど近くさらに北に位置するところは、晩商期あるいは商周の際の商族の一大拠点であった。その勢力を背景にして、西側の呂梁山脈沿いに北から保徳、柳林、石楼、永和などの各県に点々と晩商期の青銅器を出土する墓葬が発見されている[36]。黄河の西側の綏徳、清澗、子長、延長は柳林、石楼、永和の各遺跡群に対応する銅器の窖藏である。それらが霊石旌介で明らかにされた晩商期よりもさらに早い時点から、商族と旨方や基方あるいは轡方（𢧵方）[37]との接触の中で形成されたものであること示している。

表を読む（4）　周原と豐・鎬

では問題の周原の窖藏はどう読みとれるか。西周の王畿として豐・鎬のあった長安県も含めて検討してみよう。

窖藏坑の立地

周原の銅器窖藏坑と住居跡の関係について早い段階で指摘したのは丁乙のペンネームで論じた張長寿[38]である（挿図２）。ついで羅西章[39]があり、それらの成果を吸収する形で朱鳳瀚[40]のちには曹瑋[41]が論じている。張長寿の場合は陳全方に代表されるような鳳雛、召陳の建築遺構群につき

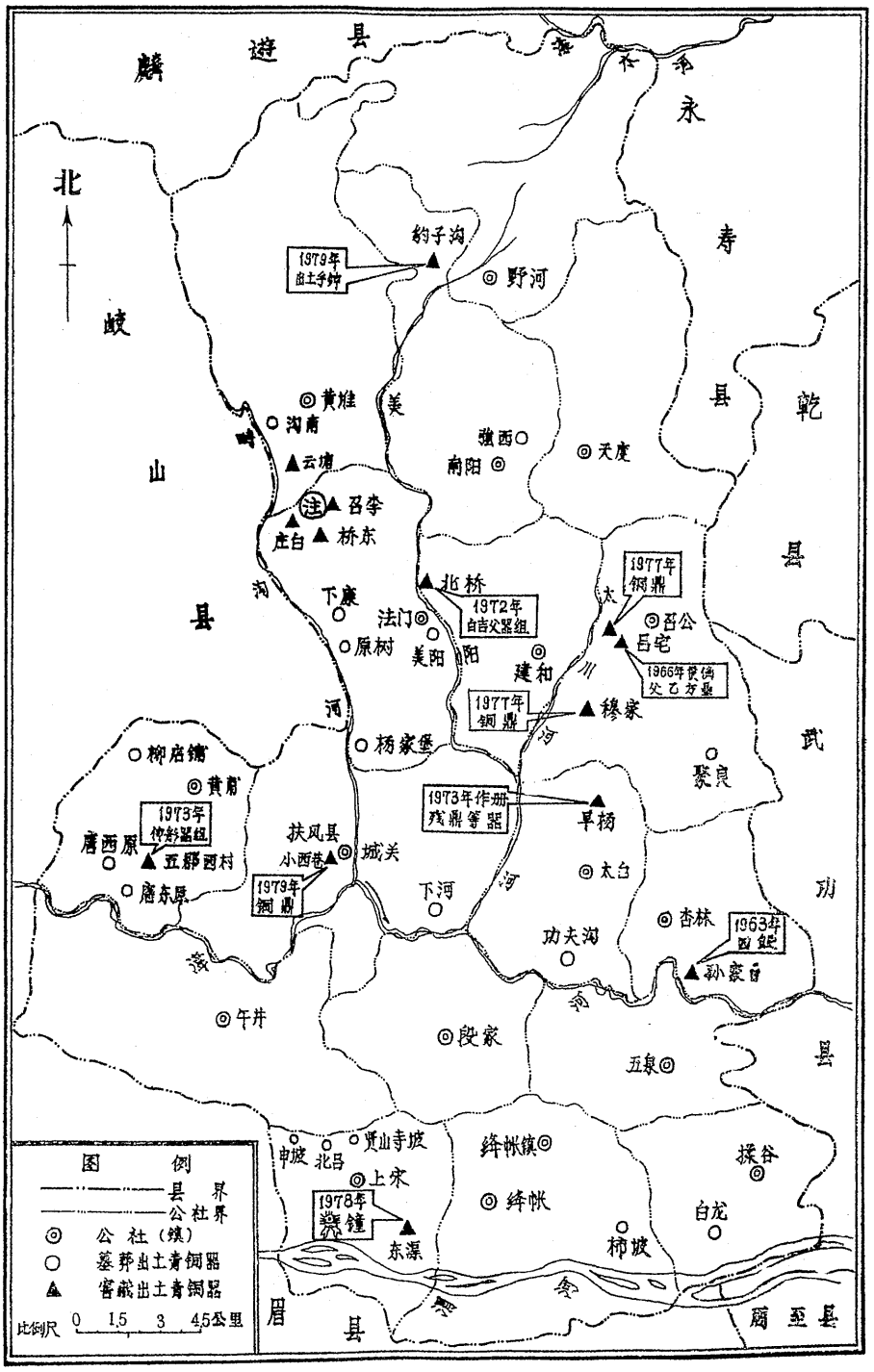


挿図２　周原の銅器窖藏

前者は周王室の宗廟であり、後者は宮室だとする見方[42]に対しては否定的な見解をのべた。ただだからどう考えるのかという意見はない。羅西章は貴族達は自分の屋敷の近くに隠匿というよりはむしろ日頃から銅器を分散して蓄財したものだとする。近年、小南によって宗廟の祭器はふだんは地中に格納されていたのではないかという案[43]がだされている。朱鳳瀚は窖藏と住居跡と墓をセットでとらえ、10数例をあげて窖中の青銅器が一家の累代の銅器であるとし王官に即いた貴族家族の厲王奔彘時のものも含む、大部分は周室東遷時、自居のすぐ近くに隠匿したものとした。周原の中心部には姫姓、非姫姓両者の貴族が居宅を構え、相互の距離は現在の村と村の間とそう変りはないとする。曹瑋も基本的に同じ見方、19例と数が少し増えている。また周原の中心部は周の王城のあったところと考えているようだ。なお姫姓、非姫姓の貴族が雑居するがその管理は姫姓の虢氏が行っていたとしている。徐天進[44]は窖藏坑と附近で検出された住居跡との関係について、先行の研究者が王室の宗廟あるいは宮室か貴族の邸宅などといい、その近くに埋めたとするのに対して後者にかたむきつつも割合冷たい。それらはあくまで仮説であって実証されたものではないという。

表に掲げた146例（No.127とNo.135を除く）中、住居跡と関係しそうなのはNo.１、No.２、No.37、No.38、No.39、No.47、No.48、No.49、No.50、No.64、No.66、No.67、No.69、No.75、No.104、No.122、No.129、No.132、No.134の19例である。灰窖や灰坑からと報告されごみためか、ごみために転用された貯藏穴なのか報告者の認識がどこにあるのか筆者につかみにくい例を、もし住居近辺にあった可能性を示すと考えるならNo.45、No.46、No.51、No.55、No.103、No.105、No.110、No.116、No.118、No.121、No.123、No.125、No.126、No.128、No.147の15例を加えるが驚くほどの数ではない。朱鳳瀚や曹瑋はわずかな例から自己の見解に適合するものを引き合いにだしたともいえる。客観的に見て相当部分でよくわかっていない。No.143の澧西馬王村では住居跡との関係に早くから関心をもっていた張長寿の指揮かと思うが、窖の近辺400㎡をボーリング調査したとある。いくつかの灰坑は検出されたが基壇とか住居跡に関連するものはなかったとある。一方No.134の眉県楊家村（第２図Ｃ）で発見された窖藏の近くには東約300ｍのところで西周墓葬が３基発掘されていたり、東南200ｍの断崖上では西周中晩期の陶片が少量採集されていたり、比較的大きな建築遺跡の存在することが報道されていたりする。周原中心部のいくつかの例と同じように窖藏と墓地と住居がセットになっている可能性が高く、周原中心部に有力貴族家族が屋敷を構えていたのと同じく、楊家村の遺跡は単叔氏の封邑あるいは家の所在かと考えられるという[45]。

それでは山の斜面とか川の岸辺とか住居とかけ離れたところにあるといった例はあるかというと、先にのべた麟游の例（No.161）や城固の例（No.168～No.172）のような明確なものはない。しいてあげるならNo.115豹子溝１号窖（挿図３）が道路工事で山の一角を爆破した時と状況説明があり南宮乎鐘が発見されている例である。No.135にあげた何尊の発見された宝鶏原賈村の例は、崖上の土取り時に発見とあるだけで状況はよくわからない。発見当時は銘文にも気づかれず、数



挿図3　扶風県の西周銅器窖藏

年後展覧会の展示のために銹落しをしていて馬承源が気がついて初めて西周の重器であることが判明した[46]。

南宮乎は岐山県礼村から出土したとされる大盂鼎に見られる盂の祖父南公の後裔だという。李学勤によれば南公は文王・武王時の重臣であった南宮括その人だという。[47] 朱鳳瀚は大小両盂鼎

の重器が出土した礼村は南宮氏の居所だったかとする。[48] 以上の南宮乎鐘や何尊のような例は西周前期と西周晩期と時期を異にするが、いずれも重器が単独で山の傾斜面やそれに近い状況で発見されているのは先の住居近傍の窖藏坑のあり方とは異なる様相といえよう。

張懋鎔は郭沫若や羅西章の見解とは別に殷周青銅器は礼器として、窖藏の目的の一つは礼制の要求から出るものだとし、それは祭祀に用いること（建築祭祀、墓葬祭祀、山川祭祀）だとした。外叔鼎（No.96）、王作中姫方鼎（No.16）、旟（旟）鼎（No.132）らはいずれも西周早期の銅器でその窖藏された時は銅器製作後久しからずしてだとし埋藏原因は社会変動説と彼が名づける郭沫若のような考え方では解釈できない例だとしている。[49] No.132の眉県楊家村の例は遺址の居住区の灰坑の中から斜めになって出土したもので、なんらかの祭祀に用いられたものかどうかの判断はむつかしい。他の２例はどういった状況で出土したのかの情報がまったくなく、張の見解の当否を判定しようがない。また外叔鼎は西周中期後半のものだ。

窖の形態・規模

灰坑や灰窖と呼ばれているごみためや貯藏穴を転用したものいがいに青銅器を埋納する専用の窖には、いくつかの形態のちがうものが見られる。なかでも注目すべきは地下式窰洞とも名づけるべき例である。先に触れたNo.134の眉県楊家村の窖（第２図Ｃ）は、まず長約4.7ｍ、幅約2.5ｍ、深さ７ｍ以上になる竪穴を掘る。ついで竪穴の南端から横穴を掘る。[50] 床面は竪穴の底より20㎝高く、入口はアーチ形を呈し、掘りこんだ横穴の天井はドーム形で高1.1ｍ、側壁は胴張り気味で径1.6×1.8ｍ、約４㎡の空間に27件の青銅器を埋納してあった。横穴の入口は版築した土で封鎖していた。また竪穴の壁はきちんと整え、五花土で填めてあった。このタイプの他のものと異なる特色は、埋納された青銅器に直接填めた土が接するあり様と銅器の上部に空間があることの違いである。

李伯謙はこのタイプのものはこれまで絶無とはいわないまでも非常に珍しいものだといい、徐天進は竪坑の底まで現状で７ｍ、２ｍは上部を削られているとのことなので坑の深さは９ｍはあった。周原で発見された窖藏坑は比較的浅いものが多く、最も浅いものだと地面から26㎝、最も深いものでも３ｍまではないと。丁寧な埋納の仕方は郭沫若の見解だけでは理解できない原因があるのではないかという。

地下式窰洞ともいうべき窖が周原の中心部にもあったのではないかという資料がいくつか知られる。[51]

ａ．清光緒十六年（1890年）秋、扶風県任家村で発見された窖からは120余件の青銅器がでたという。『陝西金石志』には‘発現の處、土室の如し’とある。大克鼎を含む克器群や仲義父器群が含まれていた。（No.60）

ｂ．1933年夏、扶風上康村で発見された窖からは100余件の銅器がでた。４～５器ごとを一重ねとして窖内に置き整然としていたと陝西図釈にはある。函（函）皇父器群と伯鮮器群が含まれ

ていたと。(No.57)

c．1940年夏、扶風県任家の徐という農民が麦を石のローラーで脱穀していた時、たちまち一深洞内に陥ちこみ洞内を探査して非常に多くの銅器を発見した。初めて発見した時、深洞は建築性の懸坑（窰洞をさすか）と同じで、埋藏したものではない。大小の銅器が整然と積まれ、中間のものは黄土もつかず多くの彝器は土に侵蝕されず金色燦然として作りたてのようだったとある。これらのうち禹鼎と函皇父鼎や函交中簠などが陝西省の収藏するところとなったという（『文物参考資料』1951－10）。

d．1940年冬、扶風県任家村の西南土壕で土取り中に窖を発見、窖は大きさ窰洞の如く、銅器は整然と置かれていた。約100余件あったが梁其器群、善父吉父器群、柬鼎、禹鼎などが含まれていたという。(No.61)

bとcには混乱があるようで今となっては確かめ難いが、これらの大量の銅器が発見された窖は先の眉県楊家村と同じような、規模はさらに大きい地下式窰洞ともいうべきものが存在していたことを推測させるのに十分である。100件を超える銅彝器が解放後発見されたのはNo.48の扶風県莊白１号窖（第１図Ｂ）だけである。ここでは長方形の竪坑が掘られ、重いものを下に軽いものを上にして、窖の底とか壁と器物の空隙には草木灰をつめるなどの配慮はみられるものの窰洞風の構造ではない。多くのものは口が狭く底の広い袋状ピットを呈していたり、円筒形であったり、平面長方形の竪坑である。

地下式窰洞と先に名づけた銅器の格納の仕方は、出土した銅器の銘を分析すると特定の家族に特有のものであったことがわかる。ａとｄがその一例でともに克の家族（華氏）が任家村に前後して作ったものだという。大克鼎によれば克の祖は師華父で、同出した仲義父諸器の銘末には華の族名がつけられている。仲義父は克本人だという意見もある。また梁其は同じ膳夫の官職を受けついだ克の後人で、膳夫吉夫とは膳夫梁其その人だとの見解がだされている。朱鳳瀚は克の家族は特に厲王時代、政治の舞台で活躍し関中に雄据したとする。[52]

ｂとｃは混乱しているが扶風康家村では1870年頃と1933年両度にともに100余件が出土したといわれる。器群は函（函）皇父が主で、郭沫若は厲王・宣王の二世にわたって事えた人物、『詩経・小雅・十月之交』の‘皇父卿士’、『大雅、常武』の‘太師皇父’その人に比定した。[53] 函氏もまた西周晩期の王畿地区の雄族の一であったことになる。

地下式窰洞と名づけた窖に歴代の青銅器を彼等は埋藏したというよりは、日頃から格納していたものではなかったかと考える。なお克は非姫姓、函は姫姓と判断されているので窰洞風のものへの格納の風習は、出自によるのではなく陝西や山西に多い地域の風習を勢力の強い隣どおしの家族が応用したものではなかろうか。

27件の銅器が地下式窰洞から発見された眉県楊家村の窖から東約600ｍのところでは、1955年に盠駒尊や盠方尊・方彝が発見されている。これらの銅器の作器者盠は李学勤によれば今回出土

した逨盤による単公の家系にみられる4代目の惠中盠父のことだという。また1985年にも今回の窖から60m前後のところの窖から逨鐘4件を含む甬鐘10件、鎛鐘3件が少なくとも発見された[54]。逨は今回の42年逨鼎、43年逨鼎、逨盤の作器者と同一人物、単公から8代目、宣王代の人物と考えられている。眉県一帯のかなりな部分が少なくとも西周中期以後、呉逨一族の所有となっていた可能性が高い。呉逨の先祖は玁狁広伐に大功をたて、宣王の後半期、王の庶弟の長父を山西洪洞東南の楊に封じた時、逨を臣下として事えさせ師団の長として逨もまた近隣の戎を伐って大功をあげることがあった。車戦に勝利し捕虜や敵の首をとり、兵器・車馬を捕獲した。一方では王官として山林川澤の産物の管理と王宮に供御することを命じられている。後には歴人を管理することも。呉逨家族が宣王期に王の信頼を受けた有力な貴族の世族であったことがわかる。[55]

埋藏のあり方

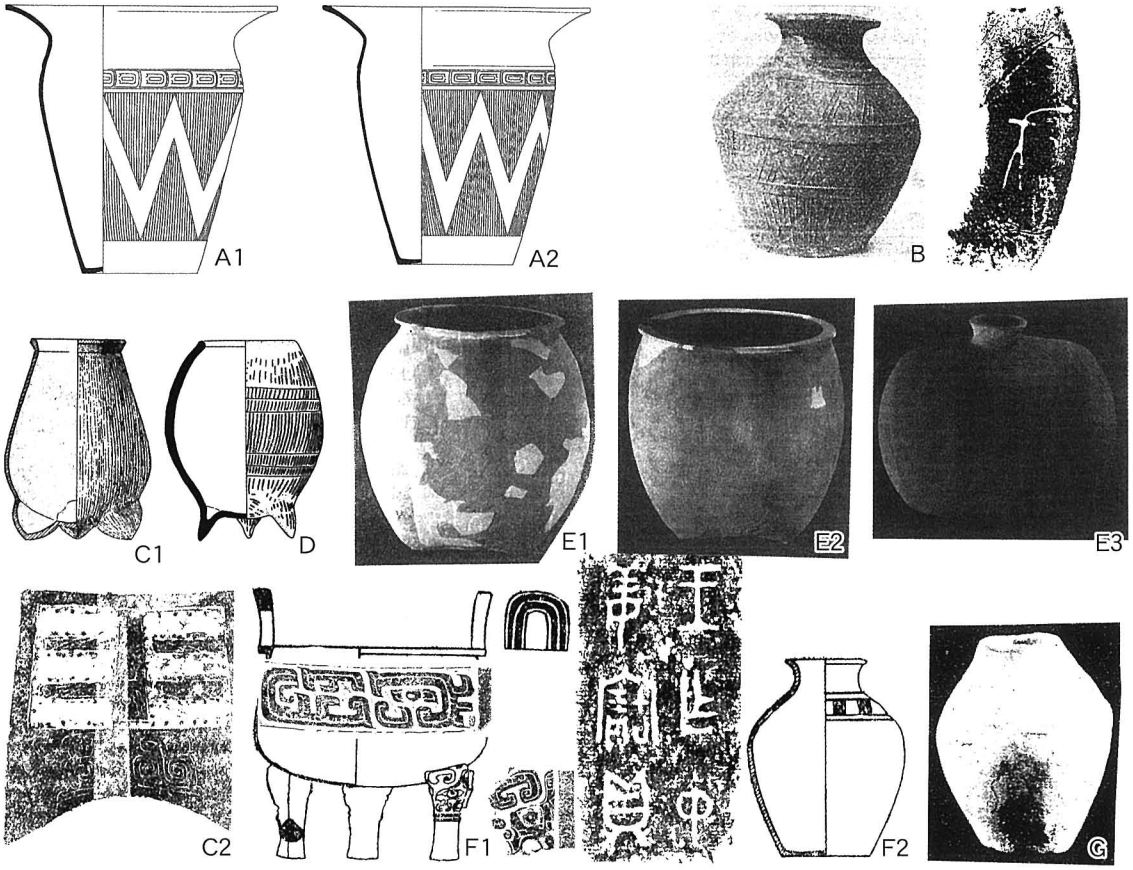
袋状ピット（No.2）、円筒形（No.75）、鍋底形（No.69）、長方形土坑（No.48、No.140）などが一般的な窖の形で、平面楕圓形のもの（No.143）もある。底や四壁を比較的丁寧に整えたもの（No.1、No.48）、坑壁を整えないもの（No.75、No.112）とさまざまである。廃棄された灰坑を再利用したと思えるものも多くみられる。なかで特殊なのは圓石を積み重ねた窖（No.21）や土器の中に入れたり（No.20、No.116、No.120、No.128）、土器を伴うもの（No.38、No.131）がある。穴を填めるに先立って四壁と銅器の間に草木灰を用いたもの（No.48）は丁寧な作業といえる。坑の埋めもどしには五花土を用いたもの（No.2、No.47、No.49、No.75、No.134）と周壁の土とあまり変わりのないもの（No.112）がある。

興味深いのは窖内に石を置いた例がいくつか知られる。[56] 1940年梁其や善夫吉父器群の出土した任家2号（No.61）窖の場合、一块の石が置いてあったというが詳細は不明、ここではまた窖藏銅器とともに銅目録板一があったというが、農民が落としてこわしてしまったという。1976年雲塘1号窖（No.70）ではまづまっ先に一块の天然大石が露われ、銅器はその大石のすぐ側にあったという。1976年発見された莊白2号窖（No.49）（第1図G）では銅器の上に一块の天然の大石が乗っかっていた。同じ年に発見された莊白1号窖（No.48）では石は窖底の中央にあり一块の天然石であった。2号窖のよりは小さかったが作業中に石はどこかわからなくなった。これらの石は弥生時代の例えば気比の銅鐸が発見された場所にあった大岩とか、出雲加茂岩倉の銅鐸群埋納に近い、近くの低い山上に岩座(磐座、いわくら)とも呼ぶべき大石の存在などとは少し趣きがちがうようだ。埋めた人の目印なのか封印のつもりなのだろうか。

銅器のあり方と時期

銅器の内容と時期を考慮すると周原の窖藏はいくつかのタイプにわかれる。

ⓐ　土器と伴う。土器の中に銅器を入れたり（No.20、No.116、No.120、No.128）、土器を伴う（No.38、No.131）場合がある。銅器の器形そのものが土器から転化したのではないかと思えるもの（No.112、No.142）もまれにある（挿図4－A．B）。



挿図４　土器を模倣、土器を伴う銅器

A　五郡西村３号窖　B　67灃西馬王村窖　C　78東渠１号窖　D　光社遺跡
E　82斉家７号窖　F　81眉県青化窖　G　81溝塬１号窖

扶風斉家７号窖（No.38）の場合は倒置された鼎の中に西周晩期の盨を入れ銅器の周囲は草木灰でなく黄土で塞いでいるとある。銅器から南１ｍ弱で南北に大型三足瓮が２件並び、上蓋には陶罐の底部を利用している。さらに西南10（１の誤りか）ｍで大型陶繭形壷１を発見したと（挿図４－Ｅ）。報告者によると三足瓮の器形、紋様はすべて西周晩期の風を備え、繭形壷も西周中晩期のものだという。[57]

上宋公社東渠村の窖藏（No.128）では大陶三足瓮から銅甬鐘１が発見された。土器の高さ61、口径29、最大腹囲137㎝、甬鐘は通高37㎝、鉦間に荘白１号窖の微史家族の鐘と似た図象徽号をもつ（挿図４－Ｃ）。報告によるとこのタイプの三足陶瓮は扶風県段村、謝家窰から周原にかけてすべて出土するとある。[58]

これらの大型三足瓮とよばれているものは王克林によって蛋形三足瓮と名づけられ、[59] 秋山進午は卵形三足甕とよんでいる[60]ものと同類である。斉家７号窖のは口縁部ㄱ字形、極めて低い三足は底の外縁につき底部中央がわずかに低くくなる形である。上宋東渠１号窖のは口縁は外開きに〉字形を呈し、袋足の大きな三足が底部中央よりから外開きに底の大部分を占めているといっ

た形態の違いがある。王克林も秋山の資料も新石器時代から商代までのもので西周時代に対応するデータを欠いている。闘鶏台溝東区発掘報告というのに関連するものがあるらしいが未見である。[61]

王克林は先周時代に先立って、蛋形三足瓮を標式とする晋中の文化が西へ移って周の祖先となったとする考えを提出しているようだが秋山は否定的だ。しかしこれも反対する意見が出されているが、鄒衡が主張した太原周辺の光社文化と𠂤族の本拠地の問題[63]、蛋形三足瓮の一つの典型が光社遺跡からも出土していること（挿図４－Ｄ）、岐山賀家１号窖（№３）から出土した戈甗と𠂤卣の存在、賀家から溝を隔てて至近の斉家７号窖からの蛋形三足瓮の発見などの考古学上の知見と厲王が彘に奔ったり、宣王が千畝（「索隠」西河、介休県）で戦い姜氏之戎に敗れたりする、あるいは先の42年逨鼎の銘には同じ汾水流域の洪洞東南とその近辺の戎との戦いでの戦果が記されていた。周王室と汾水中・下流域（晋中と晋南）との密接な関係とこの陶三足瓮はまったく無関係だと問題にしなくてよいとは思えない。これらの土器が周原に多いという羅西章の見解が正しいのならその出自を明らかにすることは重要と考える。

斉家７号窖から繭形壷も出土したと判断して良いのかどうか疑問があるが、報告者は銅器の窖から繭形壷が共伴した例として1974年武功県回龍村で発見された駒父盨盖の窖藏中にも粗縄紋繭形壷２件と粗縄紋平底陶瓮１件が重環紋蒂足銅鼎と銅削１件ともども発見されたという。『文物』の報告では「盨盖の上面には残編鐘と粗縄紋陶罐各１件、附近には玉璧１件が出土。ここは西周の遺跡で器物は地表から約１ｍほどで出土、周囲は夯土層、断面をみると文化層の下には厚約30㎝の砕石舗築層がある」とある。[64] 斉家７号窖より出土した繭形壷と土質、器形、紋様すべて相似しており、これまで秦漢時に流行したと考えられてきた繭形壷の出現が西周晩期までさかのぼることになったという。

秦文化にくわしい滕銘予のものを見ても繭形壷の出現は早くても戦国早期を待たねばならない。[65] 斉家７号窖の場合も武功県回龍村の場合も土器と窖の関係が不明で、仮りに銅器と共伴したものとすると土器の出現をさかのぼらせるのか、窖の年代を西周代よりもっと新しい時期に下げるのか両様の考え方があろう。

（宣王）[66] 十八年南淮夷の撫恤工作に功のあった𩰫父の旅盨盖であるが、遺構との関係からいえば地鎮的な目的に用いられたかと思える。白川静によれば夷王期には多くの諸夷が陝西の地に送られていたという。周原出土の三足陶瓮のようなものは、土器とともに晋中・晋南の人の周原への移送に由來するといったこともあったかも知れない。また土器を伴うこれらの例は隠匿のための埋藏というよりは、祭祀に伴う埋めたきりの銅器ではないかと考える。呂宅２号窖（№120）も西周縄紋大陶瓮のなかに玉璧１、銅錛４、大蚌泡６が入れてあった。[67] これも先の諸例と同じように地鎮の類ではないかと考える。

ⓑ　武器、工具、車馬器と伴う。

武器と工具だけ（No.24、No.129）、車馬器だけ（No.20、No.29、No.44）、礼器〔楽器〕と武器、工具を伴う（No.28、No.89）、礼器〔楽器〕と車馬器を伴う（No.７、No.45、No.105、No.142）、礼器〔楽器〕と武器・工具・車馬器を伴う（No.27、No.112、No.137）などの諸例がある。またNo.116、No.125では礼器と武器や工具を伴うが、いずれも銅料といった鋳造に関係するものが含まれており、先の諸例とは性格が異なると判断する。

時期を考慮すると礼器〔楽器〕と武器・工具を伴う場合は殷後期か西周ＩＡ期、礼器〔楽器〕と車馬器を伴う場合は西周晩期といった違いがみられるようだ。ただ礼器〔楽器〕と武器・工具・車馬器を伴うとしたNo.112とNo.136では前者は西周晩期の彝器と共伴し、後者は殷後期か西周ＩＡ期の礼器と伴うといった違いがある。なんらかの法則性を見出すのはむつかしい。しかし広義の周原出土の窖藏銅器の大多数は次にのべる礼器か楽器が中心で、武器・工具・車馬器の類を含むものはごく少数でしかない。礼器（楽器）からだけなるものとは、これらの場合性格を異にしたものだと考えることは出来るかも知れない。

ⓒ　鋳造に関係するもの

銅餅の出土したもの（No.65）、銅料や銅渣を伴うもの（No.116、No.125）、車馬器だけのもの（No.20、No.29、No.44、No.50）などはチャイルドがヨーロッパの後期青銅器時代に指摘した‘鋳物師の貯藏物’[68]などと同じ様な性格をもつものである可能性は高い。

ⓓ　礼器（楽器を含む）だけのもの

1　殷後期＋西周前期

2　（殷後期…）＋西周中期

3　（殷後期…）＋西周晩期

4　（　　…）＋春秋Ｉ期

以上の４通りに時期を考慮した時、タイプわけ出来る。

各窖からどれぐらいの礼器や楽器が出土しているか確実な資料にしぼると、広義の周原と長安県で知られた148のうち91例となる。銅器の一窖からの出土数は103件（No.48）、53件（No.140）、39件（No.34）、37件（No.２）、27件（No.134）、19件（No.63）、13件（No.139）、９件（No.70、No.122）、７件（No.39、No.77）、６件（No.21、No.36、No.107、No.142）、５件（No.１、No.17、No.38、No.49、No.54、No.130）、４件（No.33、No.35、No.110、No.117、No.126）の26例があげられる。なお３件出土のものは７例、２件出土は19例、１件出土は39例を数える。４件以上出土した場合３例をのぞいて残りはすべて西周晩期の銅器を含んでいる。４件以上の占める率は約28.6％、２件のみは20.9％、１件は42.9％、３件以下の占める率は71.4％となる。こんな数字だけでは何も意味しないかも知れないが、少くとも周原や長安県の周の王畿の所在地で発見される窖藏銅器の一窖からの出土が４件以上ある場合、ほとんどが西周晩期の銅器を含んでおり、窖の形成が西周晩期のいつかの時点であったことを示している。４件以上100件に達する窖はしかし２割８分ほどしかない。大部分、

7割強が3件以下で1件とか2件しか窖から出土しない場合が6割を越える。時期を加味しても3件以下しか一窖から出土しない場合、殷後期を含む西周前期までのもの、西周中期のもの、西周晩期のものとまんべんなくあるようだ。このことはこれらの例が隠匿だとかという説明で方が付くものだろうか。宗廟の祭器を普段は埋めておいたと考えるには数が少なすぎて効率が悪すぎる嫌いがある。

三川皆震う

周原や豐・鎬の地での銅器窖藏に対する郭沫若の解釈は、歴史的真実を射ぬいているかも知れないが、すべてがその通りということでもなさそうだ。自分の見解に適合するものだけを集めて立論するのではなくて、愚直であろうともコルプスを作り考える姿勢が必要ではないかというのが、今回の論文を書いての第一の感想である。

地下式窖洞と名づけた窖のタイプは西周晩期に勢力を誇った有力貴族家族が普段から宗廟の祭器を格納していたものが、たまたま歴史的事変に相遇しそのままになったものであろう。変に際してばたばたと埋めたものとは本来の性格を異にしたものであると考える。

武器や工具、土器などを伴う埋納の場合は山川に対するのか、建築物に対するのか対象が何かはおいても、地鎮のような意味あいが強いのではなかろうか。埋めた武器を掘り起して使うといった状況はどうだろう。チヤイルドはヨーロッパの前期青銅器時代、特に中部ドイツの埋納には数多くの短剣や槍おのの刃部が入っており、商人は相手の柄にあうものを選べるようにした'商人の貯藏物'の存在を指摘している。[69] こういった例は周原の場合考えにくい。秦が東方六国を攻撃した時、分捕った武器を柄つきのまま一括して埋置している例が河北か遼寧で2例ほどあったように記憶する[70]が、それとも少しちがうのではなかろうか。五郡西村の3号窖（第2図A）の場合、土器から転化した五年琱生尊2件（挿図4－A）に同文の銘を鋳し、矛12口、玉飾1などが出土している。土地のトラブルに決着をつけ　誓約を交わした証しとして、12口の矛を立て並べた祭場で土着の土器から転化した銅尊にそれぞれ同文を鋳込み祭儀のあと儀式に関係した一切を祭場に埋置するということがあり得たのではないか。人と人との盟誓だけでなく、それを大地にも誓う行為というのがあり得たのではないかと考える。

『史記周本紀』“幽王ノ二年、西周ノ三川(「集解」涇、渭、洛也。「正義」洛水一名漆沮)皆震ヲ。伯陽甫曰ク：「周將亡(まさにほろびントスルカ)矣。…昔伊、洛竭(キテ)而夏亡(ビ)、河竭(キテ)而商亡(ブ)。…其ノ川ノ原(みなもと)又塞(グ)、塞(ゲバ)必ズ竭(ク)。夫レ国ハ必ズ依ル山川ニ、山崩レ川竭クハ、亡国之徵(きざし)也。川竭ケバ必ズ山崩ル。…」是ノ歳也、三川竭キ、岐山崩ル。”とある。1件や2件といった僅かな銅器の埋納が異常に多いのも山川に対する西周時代かわらぬ鎮めの儀礼に伴うものかとも考える。銅器を倒置して埋納した例（第2図－F）なども同じ意図を込めたものと理解できるのではなかろうか。

最後に林巳奈夫氏が春秋Ⅰ期に比定した扁盉について触れておきたい。林氏は器形の新様式の出現として春秋Ⅰ期に比定したもの６例をあげ、そのなかに利簋と共伴した零口の盉や扶風斉家村５号窖出土の它（宦）盉、上村嶺虢国M1810号墓出土盉が含まれている。その後、関連資料が６例知られるようになった。眉県楊家村窖藏の逨盉、晋侯墓地M31号墓出土盉[71]、三門峡虢国M2001号墓、M2012号墓出土盉[72]、保利博物館2002年海外征集の西周鳳首扁盉（『中国文物報』2007年11月28日）と陝西韓城梁帯村M26号春秋早期墓出土扁盉（『文物』2008－１）である。胴部側面が圓鼓形から上下が少しへしゃげた形に変化する、胴部腹面に中央に蟠龍紋、その外周を重環紋、扁体夔龍紋（斜角雷紋）が飾る、四足が獣形か人物か、流口が龍頭かなにもつかぬかなどといった点に注目する。逨盉→晋侯墓M31号墓盉→它（宦）盉－ほぼ同時期かと思われるのが虢国M2001、M2012号墓盉→臨潼零口出土盉→保利博物館蔵盉→韓城梁帯M26号墓盉→虢国M1810号盉、獣足と人形足の２系列が並行して晋侯墓M31号盉以後出現したのではないかと思われる。晋侯墓M31は晋献侯の夫人の墓に比定されており、虢国M2001号は虢季の墓、M2012号墓は梁姫墓に比定されている。逨盉から虢国M2012号墓出土盉までは宣王・幽王の時期に含めてよいのではないかと思われる。零口出土盉はぎりぎり西周内に納めて良いかと思うがどうだろうか。周原の窖藏についてはわからないことが多い。窖が発見された時、それだけに集中するのではなくて周辺の十分な調査が必要なことを痛感する。今後の精査に期待したい。

（2008年２月14日稿了）

注

1　郭沫若「長安県張家坡銅器群銘文彙釈」『長安張家坡西周銅器群』1965，文物出版社（『考古学報』1962－1を再録）

2　郭沫若「扶風斉家村器羣銘文彙釈」『扶風斉家村青銅器群』1963，文物出版社

3　段紹嘉「扶風斉家村出土西周青銅器簡介」『扶風斉家村青銅器群』1963，文物出版社、なお窖藏の詳細な記録は別に『陝西扶風窖穴墓葬発掘報告』というのがあるとのことであるが未見。

4　朱鳳瀚「周原考古発現所見西周世族制度与貴族家族之聚落形態」『商周家族形態研究』1990，上海古籍出版社

5　黄盛璋「西周微家族窖藏銅器群初歩研究」『中国歴史博物館館刊』1979－1

6　張懋鎔「殷周青銅器埋藏意義考述」『文博』1985－5

7　注6に同じ

8　羅西章「周原青銅器窖藏及有関問題的探討」『考古与文物』1988－2

9　近藤喬一「鄭州商代銅器窖藏考」－中国古代の銅器窖藏1－『アジアの歴史と文化』第十一輯，2007，山口大学アジア歴史・文化研究会

10 a　陳全方「早周都城岐邑初探」『文物』1979－10

10 b　羅西章前掲注8

10 c　呉鎮烽「陝西商周青銅器的出土与研究」『考古与文物』1988－5・6

11　林巳奈夫『殷周時代青銅器の研究』－殷周青銅器綜覧一・本文編と図版，1984，吉川弘文館

12　北京大学考古文博学院・北京大学古代文明研究中心編『吉金鋳国史』－周原出土西周青銅器精粋－，2002，文物出版社

13　陳全方『周原与周文化』1988，上海人民出版社

14　陳夢家「西周銅器断代（一）」『考古学報』第九冊，1954

15　夏商周断代工程専家組『夏商周断代工程1996－2000年階段成果報告』，2000，世界図書出版

16　近藤喬一「中国古代に於ける鏡の副葬」－漆面罩を中心にして－『アジアの歴史と文化』第八輯，2004，山口大学アジア歴史・文化研究会

17　西北大学歴史系考古専業「西安老牛坡商代墓地的発掘」『文物』1988－6

18　劉士莪「西安老牛坡商代墓地初論」『文物』1988－6

19　四川省文物考古研究所『三星堆祭祀坑』1999，文物出版社

20　応新、子敬「記陝西藍田県出土的西周銅簋」『文物』1966－1

21　呉鎮烽前掲注10 c

22　臨潼県文化館「陝西臨潼発現武王征商簋」『文物』1977－8

23　白川静「金文通釈」五〇，補釈篇一四，利簋の読み，「隹甲子、朝…」に従った。『白鶴美術館誌』第五〇輯，1979，白鶴美術館

24　唐蘭「西周時代最早的一件銅器利簋銘文解釈」『文物』1977－8

25　王麟昌・魏益寿「陝西省麟游県出土商周青銅器」『考古』1990－10

26　劉士莪・尹盛平「微氏家族青銅器群研究」『西周微氏家族青銅器群研究』1992，文物出版社

27　河南省文物考古研究所・周口市文化局編『鹿邑太清宮長子口墓』2000，中州古籍出版社　なお白川静は について殷の王族であることを示す図象といい（白川静『西周史略』『金文通釋』46，1977，白鶴美術館）、貝塚茂樹は殷氏族中の青年集団である多子族の氏族標識で「保」の初字と見るべきものと主張した（貝塚茂樹「殷代金文に見えた図象文字 に就て」『東方学報』（京都）第九冊，1938）。

28　陝西省考古研究所編『高家堡戈国墓』1995，三秦出版社

29　鄒衡「論先周文化」『夏商周考古学論文集』1980，文物出版社

30　前掲注28参照および梁星彭「《論先周文化》商榷」『考古与文物』1982－4

31　白川静『中国古代の文化』1979，講談社

32　廣川守「大凌河流域の殷周青銅器」『日中共同研究報告－東北アジアの考古学研究』1995，同朋舎出版

33　近藤喬一「東アジアの銅剣文化と向津具の銅剣」『山口県史・資料編考古１』2000，山口県

34　郭大順「試論魏營子類型」『考古学文化論集』１，1987，文物出版社

35　山西省考古研究所『霊石旌介商墓』2006，科学出版社

36　鄒衡「関于夏商時期北方地区諸隣境文化的初歩探討」『夏商周考古学論文集』1980，文物出版社

37ａ　譚其驤『中国歴史地図集』第一冊，1982，地図出版社

37ｂ　郭沫若『中国史稿地図集』上冊，1979，地図出版社

38　丁乙「周原的建築遺存和銅器窖藏」『考古』1982－4

39　羅西章前掲注８

40　朱鳳瀚前掲注４

41　曹瑋「周原的非姫姓家族与虢氏家族」『周原遺址与西周銅器研究』2004，科学出版社

42　陳全方前掲注13

43　小南一郎『古代中国－天命と青銅器』2006，京都大学学術出版会

44　徐天進・張恩賢「西周王朝的発祥地－周原」－周原考古綜述『吉金鋳国史』2002，文物出版社

45　「陝西眉県出土窖藏青銅器筆談」『文物』2003－６中の徐天進の意見

46ａ　王光永「宝鶏市博物館新征集的饕餮紋銅尊」『文物』1966－１

46ｂ　馬承源「何尊銘文和周初史実」『中国青銅器研究』2002，上海古籍出版社

47　李学勤「金文中的周初史事」『青銅器与古代史』2005，聯經出版

48　朱鳳瀚前掲注４

49　前掲注45の張懋鎔の意見

50　前掲注45の李伯謙の説明

51　呉鎮烽前掲注10ｃ

52　朱鳳瀚前掲注４

53　郭沫若『両周金文字大系図録考釈』№131　1958，科学出版社。郭沫若が皇父は厲・宣時代に活躍したとするのに対して李学勤は皇父は宣・幽時代の人とする唐蘭の見解をとる。李注55参照。

54　前掲注45の劉懐君の発言。なお逨鐘５件がアメリカに渡っているとあるので窖藏銅器は18件は少くともあったことになろうか。なお劉懐君「眉県出土一批西周窖藏青銅楽器」『文博』1987－２は手もとになくて未見。

55　李学勤「眉県楊家村新出青銅器研究」『文物』2003－６

56　羅西章前掲注８

57　周原扶風文管所「扶風斉家村七、八号西周銅器窖藏清理簡報」『考古与文物』1985－１

58　羅西章「扶風出土的商周青銅器」『考古与文物』1980－４

59　王克林「晋国建立前晋地文化的発展」『中国考古学会第三次年会論文集』1981－文物出版社

60　秋山進午「山西省太原西郊王門溝出土の卵形三足甕」『東北アジア民族文化研究』2000年，同朋舎

61　秋山前掲注60補注参照

62　王克林「試論斉家文化与晋南龍山文化的関係－兼論先周文化的淵源」『史前研究』1983－２

63　鄒衡前掲注29

64　呉大焱・羅英杰「陝西武功県出土駒父盨蓋」『文物』1976－５

65　滕銘予『秦文化：従封国到帝国的考古学観察』2003，学苑出版社

66　白川静は夷王説をとる。『金文通釈』48，1978，白鶴美術館

67　羅西章注58

68　Childe，V．Gordon，*The BronZe Age*．New York，1969（First Published 1930）．

69　Childe 前掲注68

70　劉龍啓・李振奇「河北臨城柏暢城発現戦国兵器」『文物』1988－３

71　山西省考古研究所・北京大学考古学系「天馬－曲村遺址北趙晋侯墓地第三次発掘」『文物』1994－８

72　河南省文物考古研究所・三門峡市文物工作隊『三門峡虢国墓』第一巻、上・下，1999，文物出版社

表文献出典

1　陝西周原考古隊「陝西岐山鳳雛村西周青銅器窖藏簡報」『文物』1979－11

2　陝西省考古研究所・陝西省文物管理委員会・陝西省博物館編『陝西出土商周青銅器』(一)・(二)・(三)・(四)，1979・1980・1980・1984，文物出版社

3　龐懐清・呉鎮烽・雒忠如・尚志儒「陝西省岐山県董家村西周銅器窖穴発掘簡報」『文物』1976－5

4　陝西省博物館・陝西省文物管理委員会『陝西省博物館・陝西省文物管理委員会藏青銅器図釈』1960，文物出版社

5　龐文龍「岐山県博物館藏商周青銅器録遺」『考古与文物』1994－3

6　北京大学考古文博学院・北京大学古代文明研究中心編『吉金鋳国史－周原出土西周青銅器精粋』2002，文物出版社

7　祁健業「岐山県博物館近幾年来徴集的商周青銅器」『考古与文物』1984－5

8　王光永「陝西省岐山県発現商代銅器」『文物』1977－12

9　陝西省文物管理委員会「陝西岐山，扶風周墓清理記」『考古』1960－8

10　趙学謙「記岐山発現的三件青銅器」『考古』1959－11

11　陝西省博物館・陝西省文物管理委員会編『扶風斉家村青銅器群』1963，文物出版社

12　陝西省文物管理委員会「陝西興平，鳳翔発現銅器」『文物』1961－7

13　尚志儒・呉鎮烽・朱捷元「陝西省近年収集的部分商周青銅器」『文物資料叢刊』2，1978

14　趙学謙「陝西宝鶏，扶風出土的幾件青銅器」『考古』1963－10

15　雒忠如「扶風県又出土了周代銅器」『文物』1963－9

16　羅西章「扶風出土的商周青銅器」『考古与文物』1980－4

17　周原扶風文管所「扶風斉家村七、八号西周銅器窖藏清理簡報」『考古与文物』1985－1

18　陝西周原扶風文管所「周原西周遺址扶風地区出土幾批青銅器」『考古与文物』1982－2

19　羅西章「西周王盂考－兼論葊京地望」『考古与文物』1998－1

20　陝西周原考古隊「陝西扶風莊白一号西周青銅器窖藏発掘簡報」『文物』1978－3

21　陝西周原考古隊・尹盛平主編『西周微氏家族青銅器群研究』1992，文物出版社

22　陝西周原考古隊「陝西扶風県雲塘，莊白二号西周銅器窖藏」『文物』1978－11

23　彭裕商『西周青銅器年代綜合研究』2003，巴蜀書社

24　「陝西最近発現的西周銅器」『文物参考資料』1951－10

25　周文「新出土的幾件西周銅器」『文物』1972－7

26　羅西章「扶風新徴集了一批西周青銅器」『文物』1973－11

27　容庚『商周彝器通考』1941，ハーバード燕京学社出版

28　段紹嘉「介紹陝西省博物館的幾件青銅器」『文物』1963－3

29　史言「扶風莊白大隊出土的一批西周銅器」『文物』1972－6
30　羅西章「陝西周原新出土的青銅器」『考古』1999－4
31　周原考古隊「周原出土伯公父簠」『文物』1982－6
32　陝西周原扶風文管所「周原発現師同鼎」『文物』1982－12
33　呉鎮烽・雒忠如「陝西省扶風県強家村出土的西周銅器」『文物』1975－8
34　羅西章「陝西扶風発現西周厲王㝬𣪘」『文物』1979－4
35　高西省・侯若斌「扶風発現一銅器窖藏」『文博』1985－1
36　羅西章「扶風白家窖水庫出土的商周文物」『文物』1977－12
37　宝鶏市考古研究所・扶風県博物館「陝西扶風五郡西村西周銅器窖藏発掘簡報」『文物』2007－8
38　陳昭容・内田純子・林宛蓉・劉彦彬「新出土青銅器＜琱生尊＞及伝世＜琱生簋＞対読－西周時期大宅門土地糾紛協調事件始末」『古今論衡』第16期，2007，中央研究院歴史語言研究所
39　胡社生・汪玉堂「扶風新出商周青銅器賞析」『収藏』2007－2
40　高西省「扶風巨浪海家出土大型爬龍等青銅器」『文物』1994－2
41　羅西章「陝西扶風県北橋出土一批西周青銅器」『文物』1974－11
42　羅西章「宰獸簋銘略考」『文物』1998－8
43　高西省「扶風出土的幾組商周青銅兵器」『考古与文物』1993－3
44　劉懐君・任周芳「眉県出土“王作仲姜”宝鼎」『考古与文物』1982－2
45　史言「眉県楊家村大鼎」『文物』1972－7
46　郭沫若「関于眉県大鼎銘辞考釈」『文物』1972－7
47　劉懐君「眉県出土一批西周窖藏青銅楽器」『文博』1987－2
48　陝西省考古研究所・宝鶏市考古工作隊・眉県文化館楊家村聯合考古隊「陝西眉県楊家村西周青銅器窖藏発掘簡報」『文物』2003－6
49　陝西省文物局・中華世紀壇芸術館『盛世吉金－陝西宝鶏眉県青銅器窖藏』2003，北京出版社
50　王光永「宝鶏市博物館新徴集的饕餮紋銅尊」『文物』1966－1
51　馬承源「何尊銘文初釈」『文物』1976－1
52　高次若・劉明科「宝鶏茹家莊新発現銅器窖藏」『考古与文物』1990－4
53　何漢南「陝西省永寿県、武功県出土西周銅器」『文物』1964－7
54　中国科学院考古研究所編『長安張家坡西周銅器群』1965，文物出版社
55　陳賢芳「父癸尊与子尊」『文物』1986－1
56　珠葆「長安灃西馬王村出土“鄦男”銅鼎」『考古与文物』1984－1
57　西安市文物管理処「陝西長安新旺村，馬王村出土的西周銅器」『考古』1974－1
58　陝西省博物館「陝西長安灃西出土的逋盂」『考古』1977－1

59　張長寿「記陝西長安灃西新発現的両件銅鼎」『考古』1983－3
60　臨潼県文化館「陝西臨潼発現武王征商簋」『文物』1977－8
61　應新・子敬「記陝西藍田県出土的西周銅簋」『文物』1966－1
62　尚志儒・樊維岳・呉梓林「陝西藍田県出土㝬叔鼎」『文物』1976－1
63　韌松・樊維岳「記陝西藍田県新出土的應侯鐘」『文物』1975－10
64　韌松「“記陝西藍田県新出土的應侯鐘”一文補正」『文物』1977－8
65　康楽「陝西武功県徵集到三件西周青銅器」『考古与文物』1985－4
66　王麟昌・魏益寿「陝西省麟游県出土商周青銅器」『考古』1990－10
67　呼林貴・薛東星「輝県丁家溝出土西周窖藏青銅器」『考古与文物』1986－4
68　姫乃軍・陳明徳「陝西延長出土一批西周青銅器」『考古与文物』1993－5
69　斉天谷「陝西子長県出土的商代青銅器」『考古与文物』1989－5
70　祝培章・卜哲民・程学華「陝西城固県発現的青銅器」『文物』1966－1
71　黒光・朱捷元「陝西綏徳塢頭村発現一批窖藏商代銅器」『文物』1975－2

挿図出典

挿図1　徐錫台「早周文化的特点及其淵源的探索」『文物』1979－10
挿図2　丁乙「周原的建築遺存和銅器窖藏」『考古』1982－4
挿図3　羅西章「扶風出土的商周青銅器」『考古与文物』1980－4
挿図4
A　宝鶏市考古研究所・扶風県博物館「陝西扶風五郡西村西周青銅器窖藏発掘簡報」『文物』2007－8
B　珠葆「長安灃西馬王村出土“鄦男”銅鼎」『考古与文物』1984－1
C　羅西章前掲『考古与文物』1980－4
D　秋山進午「山西省太原西郊王門溝出土の卵形三足甕」『東北アジア民族文化研究』2000，同朋舎
E　周原扶風文管所「扶風斉家村七、八号西周銅器窖藏清理簡報」『考古与文物』1985－1
F　劉懐君・任周芳「眉県出土“王作仲姜”宝鼎」『考古与文物』1982－2
G　羅西章「扶風溝原発現叔趙父禹」『考古与文物』1982－4

図版出典

第１図

Ａ　中国科学院考古研究所編『長安張家坡西周銅器群』1965，文物出版社

Ｂ１～Ｂ３　尹盛平主編『西周微氏家族青銅器群研究』1992，文物出版社

Ｂ４　羅西章「周原青銅器窖藏及有関問題的探討」『考古与文物』1988－２

Ｃ　龐懐清・鎮烽・忠如・志儒「陝西省岐山県董家村西周銅器窖穴発掘簡報」『文物』1976－５

Ｄ　陝西周原考古隊「陝西岐山鳳雛村西周青銅器窖藏簡報」『文物』1979－11

Ｅ・Ｆ　羅西章前掲『考古与文物』1988－２

Ｇ１・Ｇ２　陝西周原考古隊「陝西扶風県雲塘，莊白二号西周銅器窖藏」『文物』1978－11

Ｇ３　羅西章前掲『考古与文物』1988－２

第２図

Ａ１・Ａ２　宝鶏市考古研究所・扶風県博物館「陝西扶風五郡西村西周青銅器窖藏発掘簡報」『文物』2007－８

Ａ３　陳昭容・内田純子・林宛蓉・劉彦彬「新出土青銅器＜琱生尊＞及伝世＜琱生簋＞対読」『古今論衡』第16期，2007，中央研究院歴史語言研究所

Ｂ１・Ｂ２　周原扶風文管所「扶風斉家村七、八号西周銅器窖藏清理簡報」『考古与文物』1985－１

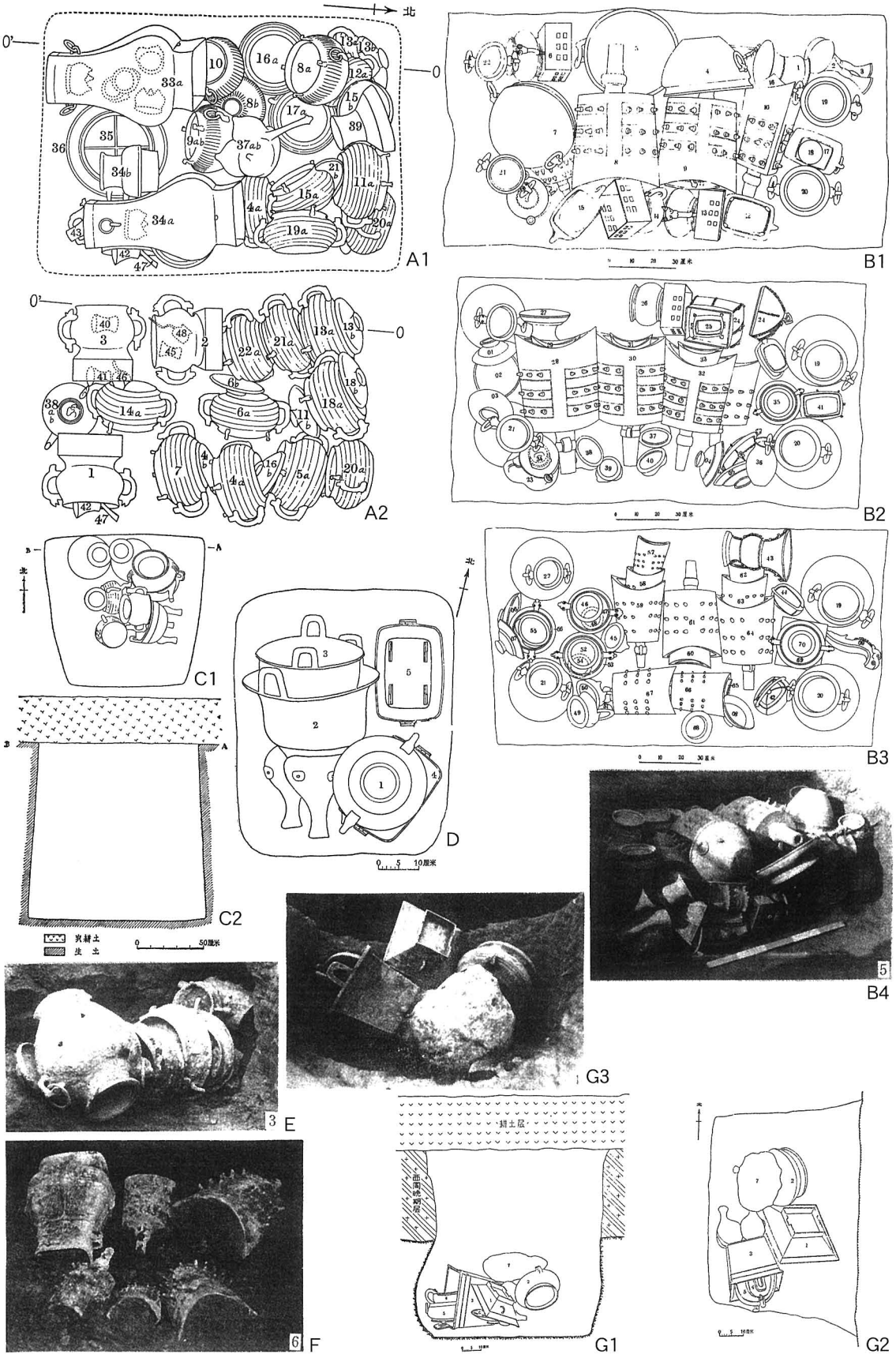
Ｂ３　羅西章前掲『考古与文物』1988－２

Ｃ　陝西省考古研究所・宝鶏市考古工作隊・眉県文化館楊家村連合考古隊「陝西眉県楊家村西周青銅器窖藏発掘簡報」『文物』2003－６

Ｄ　劉懐君・任周芳前掲『考古与文物』1982－２

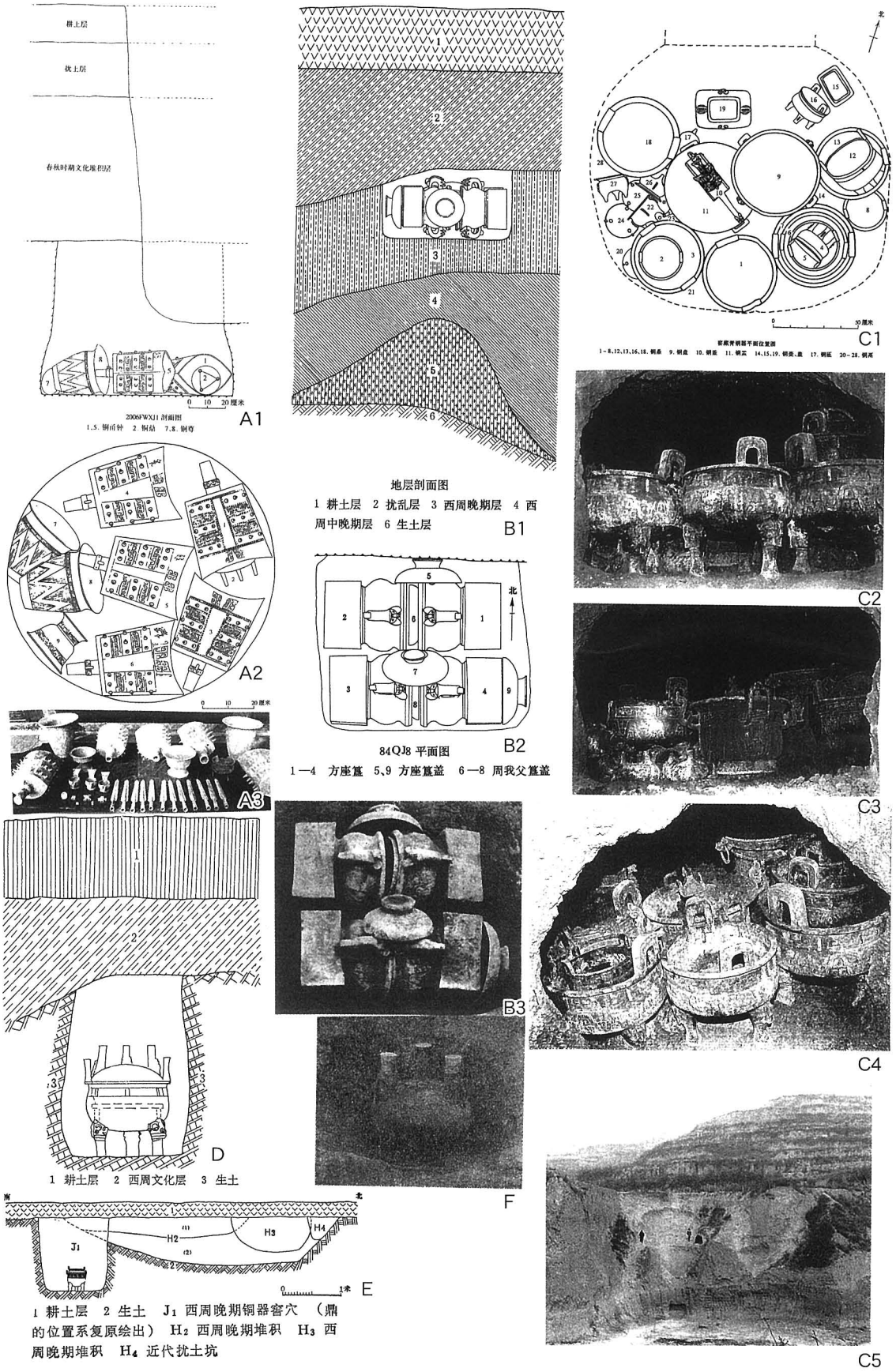
Ｅ　陝西周原扶風文管所「周原発現師同鼎」『文物』1982－12

Ｆ　西安市文物管理処「陝西長安新旺村，馬王村出土的西周銅器」『考古』1974－１



第1図　周原の銅器窖藏（1）

A　長安県張家坡（上層・下層）　B　莊白1号（上層・中層・下層）　C　董家1号
D　鳳雛1号　E　北橋1号　F　官務吊庄　G　莊白2号



第2図 周原の銅器窖藏 (2)

A 五郡西村3号　B 斉家8号　C 眉県楊家村
D 眉県青化　E 黄堆下務子村　F 長安新旺村